名　称	所　在	旧国	規　模（m）					貼石	列石	埋葬施設	副葬品	時　期	参考文献
			台状部	含突出部	墳丘高	突出部幅	突出部長						
阿弥大寺３号	鳥取県倉吉市下福田	伯耆	6.2×?		0.40		2.00	○	○	不明		弥生後期後葉(中川Ⅳ、松井Ⅶ・Ⅷ)	①
藤和	鳥取県倉吉市山根	伯耆	9.6×8.5					○	○	土壙墓1		弥生後期末 (中川Ⅵ新相、松井ＸⅠか)	①
尾高浅山１号	鳥取県米子市尾高	伯耆	9.7×7.1		0.85	1.80	0.50	○	○	不明		弥生後期初頭～前葉 (中川山陰Ⅰ、松井Ⅴ、青木Ⅱ)	①
日下弥生１号	鳥取県米子市日下	伯耆	10.0×?		0.60	1.20	1.50	○	×	木棺墓4		弥生後期中葉 (中川山陰Ⅲ、松井Ⅵ、青木Ⅲ古)	①
宮内１号	鳥取県東郷町宮内	伯耆	(9.25×17.0)					○		土壙墓6	鉄剣・管玉	弥生後期中葉(中川Ⅳ、松井Ⅶ)	①
西桂見	鳥取県鳥取市桂見	因幡	40.0以上		5.00			○	○	1基以上		弥生後期前半(松井「因幡Ⅵ~Ⅶ」)	①
父原１号	鳥取県溝口町父原	伯耆	15.0×13.0			1.20	3.60	○	×	石棺墓1		弥生後期後葉 (中川山陰Ⅵ中相、松井Ⅹ、青木Ⅴ・Ⅵ)	①
父原２号	鳥取県溝口町父原	伯耆	11.0×9.0		1.00	3.00	3.50	×	×	木棺墓2		弥生後期後葉 (中川山陰Ⅵ中相、松井Ⅹ、青木Ⅴ・Ⅵ)	①
洞ノ原11号	鳥取県淀江町福岡	伯耆	1.5×1.2		0.20	0.50	0.40	○		不明		弥生後期前葉(中川Ⅱ、青木Ⅱ)	①
洞ノ原12号	鳥取県淀江町福岡	伯耆	1.1×1.1		0.20	0.30	0.20	○		不明		不明	①
洞ノ原13号	鳥取県淀江町福岡	伯耆	1.3×1.2				0.20	○		不明		不明	①
洞ノ原15号	鳥取県淀江町福岡	伯耆	1.6×?		0.20			○		不明		不明	①
洞ノ原16号	鳥取県淀江町福岡	伯耆	1.3×1.3		0.20			○		不明		不明	①
洞ノ原17号	鳥取県淀江町福岡	伯耆	1.3×1.2		0.10			○		1基		不明	①
洞ノ原１号	鳥取県淀江町福岡	伯耆	6.4×5.3		0.40	1.60 (1.30)	0.60 (1.20)	○		不明		弥生後期初頭(中川Ⅰ、青木Ⅱ)	①
洞ノ原３号	鳥取県淀江町福岡	伯耆	4.3×3.5		0.30	1.10	0.30	○		不明		弥生後期前葉(中川Ⅱ、青木Ⅱ)	①
洞ノ原４号	鳥取県淀江町福岡	伯耆	3.8×3.1		0.30	1.20	0.30	○		不明		弥生後期前葉(中川Ⅱ、青木Ⅱ)	①
洞ノ原５号	鳥取県淀江町福岡	伯耆	2.2×1.7		0.20	0.60	0.60	○		1基		不明	①
三嶋谷１号	鳥取県岩美町新井	因幡	26.5×18.0		3.00	3.50	3.00～ 3.50			墓壙３基	供献土器	弥生中期末葉～後期初頭	⑤
糸谷１号	鳥取県国府町糸谷	因幡	14.0×12.0		2.00		(2.00～ 4.00)	○		11基	剣・鉋	弥生後期終末(松井「因幡XI」)	①
竹田８号	岡山県鏡野町竹田	美作	14.0×5.5		1.50								③⑧
船木南山	兵庫県小野市船木町	播磨	15×?										③
周遍寺山1号	兵庫県加西市網引町	播磨	9.5×6.0										③
風巻２号	福井県清水町風巻	越前	25.0×20.0		2.50							弥生後期末(小羽山Ⅲ・法仏新)？	①
風巻４号	福井県清水町風巻	越前	14.0×?										③
小羽山22号	福井県清水町小羽	越前	9.0×6.0		1.20	2.40	3.00			流失		弥生後期後葉 (小羽山Ⅱ・漆2群・法仏式)	⑦
小羽山23号	福井県清水町小羽	越前	8.7X7.0		1.40	2.00	2.00			箱形木棺墓1	鉄刀子1 供献土器5	弥生後期後葉 (小羽山Ⅱ・漆2群・法仏式)	⑦
小羽山24号	福井県清水町小羽	越前	13.0X13.0		1.60					箱形木棺墓2	碧玉製管玉15 碧玉製管玉40 鉄鏃?1 供献土器15	弥生後期後葉 (小羽山Ⅱ・漆2群・法仏式)	⑦
小羽山30号	福井県清水町小羽	越前	26.0X22.0	33.0X28.0	2.70	6.00	4.00			組合箱形木棺墓1	刃関双孔鉄短剣1 碧玉製管玉103 ガラス製管玉10 ガラス製勾玉1 供献土器40	弥生後期後葉 (小羽山Ⅱ・漆2群・法仏式)	⑦
小羽山33号	福井県清水町小羽	越前	7.0X5.0		1.00	2.40	2.00			割竹形木棺墓1	翡翠製勾玉1	弥生後期後葉 (小羽山Ⅱ・漆2群・法仏式)	⑦
小羽山47号	福井県清水町小羽	越前	(4.4X4.4)		0.20	2.00	1.40			流失	供献土器2-3	弥生後期後葉 (小羽山Ⅱ・漆2群・法仏式)	⑦
高柳２号	福井県福井市高柳町	越前	6.2×5.5										③
一塚21号	石川県松任市一塚町	加賀	18.0×18.0	27.0×26.0	1.00	6.00	7.50			消滅		弥生後期終末 (小羽山Ⅳ・漆3群・月影古)	①⑧
一塚38号	石川県松任市一塚町	加賀	11.2×9.70	15.6×15.56	0.50					消滅		弥生後期終末(漆4群・月影新)	①⑧
呉羽山丘陵No.18	富山県富山市金屋	越中	25.0×23.0?										③⑩
杉谷４号	富山県富山市杉谷	越中	25.0×25.0		3.90	13.60	15.00			未調査		弥生終末(漆5群・白江式古)	①⑨
呉羽山丘陵No.10	富山県富山市古沢	越中	23.5×22.0?										③⑩
呉羽山丘陵No. 6	富山県富山市古沢	越中	19.0×19.0?										③⑩
富崎１号	富山県婦中町富崎	越中	21.7×21.7		3.00	9.00	6.00			未調査		法仏式～月影Ⅱ式?	本書
富崎２号	富山県婦中町富崎	越中	21.7×21.7		2.80	9.50	6.30			未調査		法仏式～月影Ⅰ式?	〃
富崎３号	富山県婦中町富崎	越中	22.0×21.0		3.90	12.00	4.00m 以上			未調査		法仏式	〃
鏡坂１号	富山県婦中町長沢	越中	24.1×24.1		4.80	12.00	4.00m 以上			未調査		月影Ⅰ式	〃
鏡坂２号	富山県婦中町外輪野	越中	13.7×13.7		3.00	6.00	3.75			未調査		月影Ⅰ式	〃
六治古塚	富山県婦中町長沢	越中	24.5×24.5		5.10	10.60	7.20			未調査		月影Ⅱ式	〃

表８　四隅突出型墳丘墓一覧

四隅突出型墳丘墓突出型墳丘墓データ・測量図 引用参考文献

① 山陰考古学研究会 1997『四隅突出型墳丘墓とその時代』第25回山陰考古学研究集会
② 出雲市教育委員会 1995『出雲・西谷墳墓群シンポジウム 四隅突出型墳丘墓の謎に迫る』
③ 島根県立八雲立つ風土記の丘 1999『夏季特別展「海」－海流に乗った古代の恋物語－』
④ 大山スイス村埋蔵文化財発掘調査団、鳥取県大山町教育委員会 2000『妻木晩田遺跡発掘調査報告』
⑤ 岩美町教育委員会 1999『新井三嶋谷遺跡発掘調査現地説明会資料』
⑥ 安来市教育委員会 1999『荒島古墳群発掘調査報告書』安来市埋蔵文化財調査報告書第27集
⑦ 福井県清水町教育委員会 1997『小羽山』
⑧ 石川県松任市教育委員会 1995『旭遺跡群』
⑨ 富山市教育委員会 1974『富山市杉谷地内埋蔵文化財予備調査報告書』
⑩ 富山考古学会 1999『富山考古学会創立50周年記念シンポジウム 富山平野の出現期古墳《発表要旨・資料集》』

※四隅突出型墳丘墓に関わる第81図、第82図、表７、表８は、各地の研究者による度重なる調査と並々ならぬ御努力によって蓄積されたデータを元に、渡辺貞幸氏を中心として既に集成されていた一覧に、今回の千坊山遺跡群に関するデータを加えさせていただいたものである。先学諸氏の業績に深い敬意を表したい。

は時間の経過とともに大きな変化を遂げるが、中国地方では変化が緩やかであり発生当初の形態を維持する傾向がみられ、先学の指摘の通り後期後半に忽然として吉備に出現した全長83m高さ5mに及ぶ倉敷市楯築墳丘墓に連続するような発展は窺えない。北陸内部には肥厚した突出部を始めとする共通性があるが、特に千坊山遺跡群は強い地域性が窺え「千坊山型」とも呼べる独特の形態といえる。その他、グラフ化はしていないが、山陰では主要な墓は全て四隅突出型墳丘墓であり複葬の場合が多いが、北陸では限られた小地域のみの墓制で特定個人墓である点も大きく異なる。

なお、埋葬主体部と副葬品の組成による比較も、交流関係や地域性を知る上で非常に重要な要素であるが、千坊山遺跡群では未調査であり不明である。ただ第2節第2項で述べたように、出土土器を概観すると搬入品はなく器種構成比率も他地域の四隅突出型墳丘墓とやや異なる。北陸では共通して在地色が強く、吉備と山陰間の特殊器台・特殊壺を始めとする土器交流にみられるような密接な交流は窺えない。北陸での埋葬主体部の具体的な確認例は法仏式期の福井県小羽山30号墓のみであるが、埋葬主体部内部に朱を撒く、多量の玉等の副葬、主体部上に朱を精製する際使用した石を置き大量の土器を集積するなど、墳頂部における祭祀は同時期の島根県西谷3号墓に類似することが指摘されており（古川1995)、越前では墳形だけでなく葬送儀礼にも山陰の影響がみられる。同じく法仏式期の富崎3号墓でも、具体的な状況は分からないが大量の土器を用いた祭祀が考えられる。

第2項　北陸の四隅突出型墳丘墓

四隅突出型墳丘墓として確実なものは、福井県に小羽山墳墓群6基と高柳2号墓の7基、石川県に旭遺跡群一塚21号墓の1基がある。富山県では昭和49年に婦中町の北に接する富山市に杉谷4号墳が発見されて以後、千坊山遺跡群で6基を調査しており、全部で7基を数える他、可能性が高いと考えられるものに富山市の呉羽山丘陵No.6・10・18古墳、小矢部市の北一墳墓群の4基がある。北陸全体を通して未調査部分が多く、今後類例が増加する可能性も高い。

北陸の四隅突出型墳丘墓に共通する属性としては、①葺石、貼石が存在しない、②単葬墓である（特定個人墓)、③在地系土器を祭祀儀礼に用いる、④周溝を巡らせる、⑤突出部が肥厚する、⑥石川・富山では台状部は方形を呈する、⑦周溝墓等の他形態の墓と共存する場合がよくある、⑧各県の限られた地域に集中してみられる、などが挙げられる。受容当初は、福井県では山陰の強い影響が窺えるが、千坊山遺跡群では影響を受けつつも伝統的な周溝墓の形態を踏襲した四隅を掘り残すタイプとして受容しており、当初から在地的様相を強く持つものであった。伝統的墓制を素地にした北陸における一つの受容形態であったと考え得る。⑦については、富山市の杉谷古墳群と杉谷A遺跡（第69図）では月影～白江式期に四隅突出墳・方形墳丘墓と周溝墓群が共存、旭遺跡群では月影式期に四隅突出型墳丘墓と方形周溝墓群が、白江式期に前方後方形墳丘墓と方形周溝墓群が共存している。北陸の墓形態が地域・被葬者によって多様性に富むということの他、ここにも在来的墓制を維持する北陸に共通した受容の特徴が窺える。

北陸における四隅突出型墳丘墓の受容と造営については諸説あるが、前田清彦氏は①山陰―山陽では下位レベルにおいても他地域首長との政治的交流が土器交流を始めとした葬送祭祀に現れているが、北陸では墳形を採用しながらも在地の祭祀土器を用い葬送祭祀の大部分を在来の方式で執行、墓制の属性を選択的に受容しており、交流の基盤が根本的に異なる、②受容・造営は北陸主導型。現段階資料では北陸内部での四隅突出型墳丘墓をシンボルとする首長連合は形成されておらず山陰対北陸一地域の首長間交流にとどまる。地域首長の対外的政治方策の最善の後ろ盾として造営され、それゆえに単発的であり北陸伝統の埋葬習俗を改変することなく墳形のみが強調されたと分析している（前田1995)。

また宇野隆夫氏は、「四隅突出墳（四隅突出型墳丘墓）は当時の地域的な王墓の一つとしてだけ理解することは出来ないもの」であり、「社会の中枢的な価値を、青銅祭器から個性的な墳丘に転換する最初の試みであり、古墳時代の社会が確立するプロセスの第1歩である」とし、「北陸における方形周溝墓・台状墓の受容」とは大きく異なる意味をもっていたとしている（宇野1999)。

第４節　千坊山遺跡群における在地勢力の成立と衰退

本遺跡群の分析は、古墳出現期の地域的様相を考える上で極めて重要な位置を占めるものであり、そのためにはまず遺跡群を構成する遺跡の分布状況や内容など基本的な諸点を捉え、総体的に考察する必要があった。今回の調査はこのような視点から実施し、その意義は集落と埋葬の両面から弥生時代から古墳時代への移行期の動態を把握する手掛かりが得られたことにある。ここで、その成果を時間的な流れに沿ってまとめると以下のようになる。

Ⅰ期（法仏式期）は出現期。富崎グループ（高地性集落）と鍛冶町グループ（平野の集落）が出現し、ムラ長を始めとする特定個人墓として四隅突出型墳丘墓を築造する特殊な墓制が成立した。

Ⅱ期（月影Ⅰ式期）は成立期。本遺跡群を構成した４グループ（富崎・鍛冶町・千坊山・南部）が揃い、相互に等質的な農業共同体を形成した。各集団は共通して四隅突出型墳丘墓を築造し、同じ集団内の特定個人間においては墳丘規模に身分差が反映された。この墓制は県内ではほぼこの一帯に限られ、限定した分布や「千坊山型」ともいえる地域性から考えると、一地域の自立的共同体が海・陸路ルートで交流した他地域の墓制を固有のものとして消化してから在地的墓制の中に取り入れたものと推測される。他系統の墓制を一過性的に受容した背景には、富山平野が政治的に統合されていく社会的変革期を目前に、他地域の首長連合のシンボル的墳形を掲げることで井田川・山田川合流域の地縁集団の結束を強化し、勢力を他に顕示する目的があったのではないか。

Ⅲ期（月影Ⅱ式期）は発展期。大型墳丘墓の動向から、４グループのうち千坊山グループが地域の中枢を担うようになったと推定できる。千坊山グループでは三つの集団が独自に造墓した可能性が高いが、その中の特定集団が前方後方形墳丘墓を採用したことは大きな変化であり、次の流動期に向けての兆候とみなしうる。

Ⅳ期（白江～古府クルビ式期）は流動・再編期で、最盛期といえる。大きな地域社会の変動が起こり、それに伴い集落は再編され埋葬は劇的変化を遂げる。千坊山遺跡が廃絶あるいは移動する中で、富山平野を統括する首長が台頭し、定型化・卓越した前方後方墳が築かれた。弥生時代に小地域内で完結していた階層性は広域な地域一帯において重層的に序列化するようになり、墳丘の形態・規模に複雑に反映された。本遺跡群の大型古墳の導入は能登・加賀より早く、これは地域の統合が迅速に進み在地政権が確立した結果とみられ、それと同時に外来系祭式土器の受容に見られるような対外交流も行うようになる。そして大和を頂点とした汎日本的政治的秩序に参入していくが、その一方で、葺石や埴輪等は受容せず在地系土器が依然として主体を占める状況など地域性も維持される。

Ⅴ期（高畠式期）は衰退期。大型古墳の造営は古府クルビ式期の２基のみで断絶し、以降は衰退の一途を辿る。

本遺跡群の変遷は以上のようになるが、集落と埋葬が密接に関係しながら推移した古墳時代への転換過程を非常に良く表している。特にⅢ期からⅣ期への劇的変化は、いわゆる弥生時代から古墳時代への過渡期における“激動”の具体相を示している可能性が高いといえ、この動態に重要な手掛かりが含まれていると考える。

なお、補足であるが、千坊山遺跡群を取り巻く情勢として、勅使塚古墳築造後まもなく富山湾近隣の氷見市に造られた柳田布尾山古墳の存在がある（第69図）。この古墳は日本海側最大（全長107.5ｍ）の前方後方墳であり、県内外の広い範囲に影響を及ぼした勢力の存在を示す。また以後、富山県西部の射水・砺波郡地域には前方後円墳が出現し、律令期には射水郡に越中国府がおかれる。千坊山遺跡群の衰退は、このような新しい動向の中で理解できるであろう。ただし律令制下において婦負郡が成立することは、本地域が一定の独自性をもつ地域勢力として存続したことを強く示唆している。

おわりに

婦中町は婦負(ネイ)郡の中央部に位置する。藤田富士夫氏は、当町で開催したシンポジウムで、千坊山遺跡群を中心とする地域を邪馬台国連合の最端の地にある“奴国”に含まれる地域として“ヌイ国”と呼称し、婦負王国の存在を裏付ける説を提唱された（附章２参照)。本遺跡群を多角的に評価する上で興味深い説であり、教えられることが多い。

本遺跡群は、集落・墓地両面の実態と変遷を地域的（小単位毎）に把握でき、農耕社会が発展し初期国家が誕生するまでの刻々と移り変わる時代の動向を如実に示す典型的事例を提示し得る、貴重な例となるものである。また、地域史を解明する上でも極めて重要な役割を果たすものであり、本報告書の資料の意義はここに尽きる。

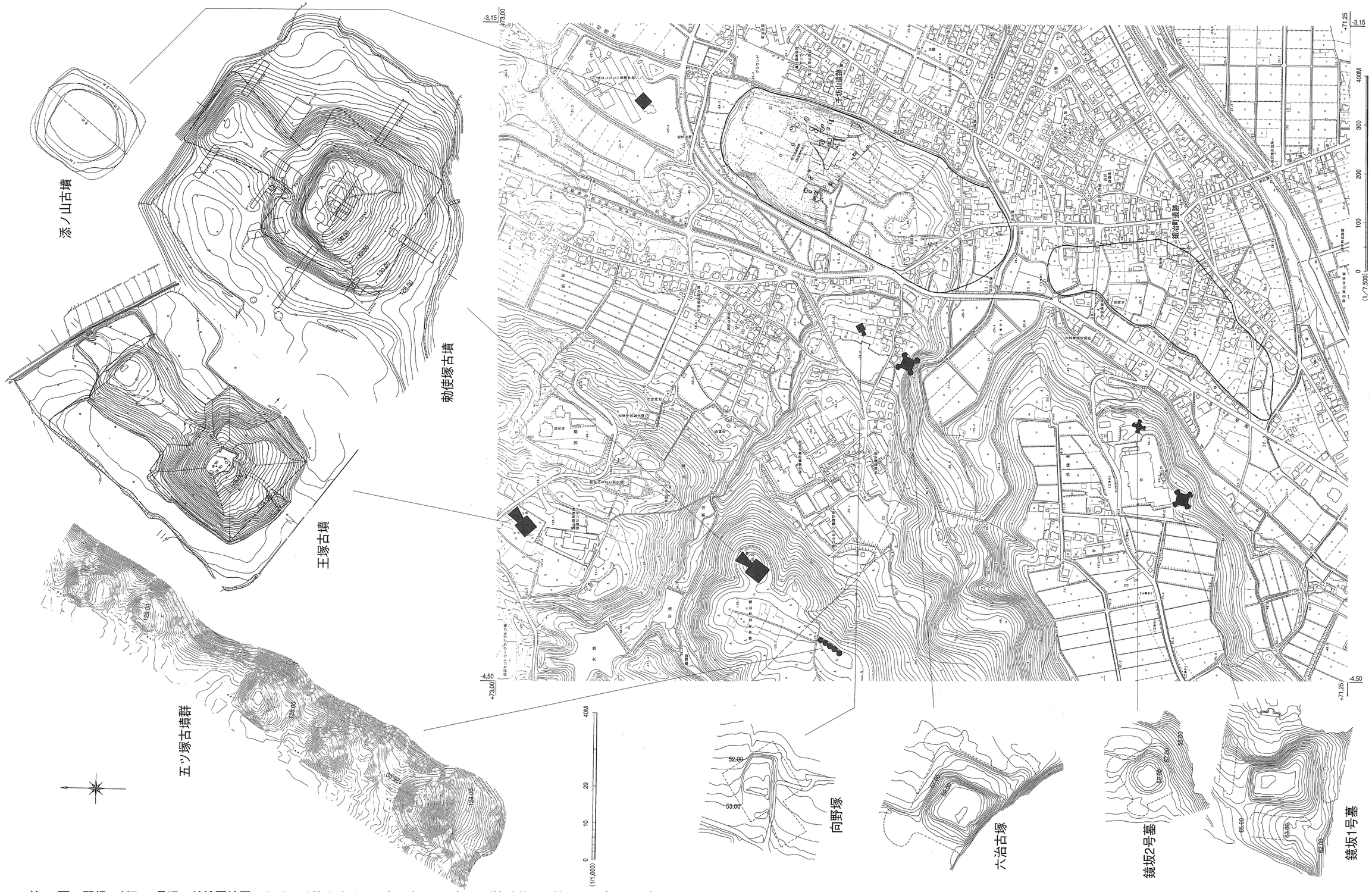
しかしながら、この調査は千坊山遺跡群を大まかに捉える為の試掘調査であり、遺跡群の評価と意義付けに不可欠な集落構造、墳丘の内部構造、集落と古墳の対応関係、首長の居住する拠点集落など、まだ把握していないデータも多くある。また、本遺跡群の特殊な墓制に表れる地域性を明確にするには、全国的な時代的背景と墓制の中での位置付けが重要である。今後の研究課題としていきたい。先学諸氏の業績に深い敬意を示すとともに、多くの御批判・御教示を賜れれば幸いである。

本書をまとめるにあたっては、国際日本文化研究センター宇野隆夫氏より有益な御教示を頂いた。末尾ではあるが、記して深い謝意を表したい。

参　考　文　献

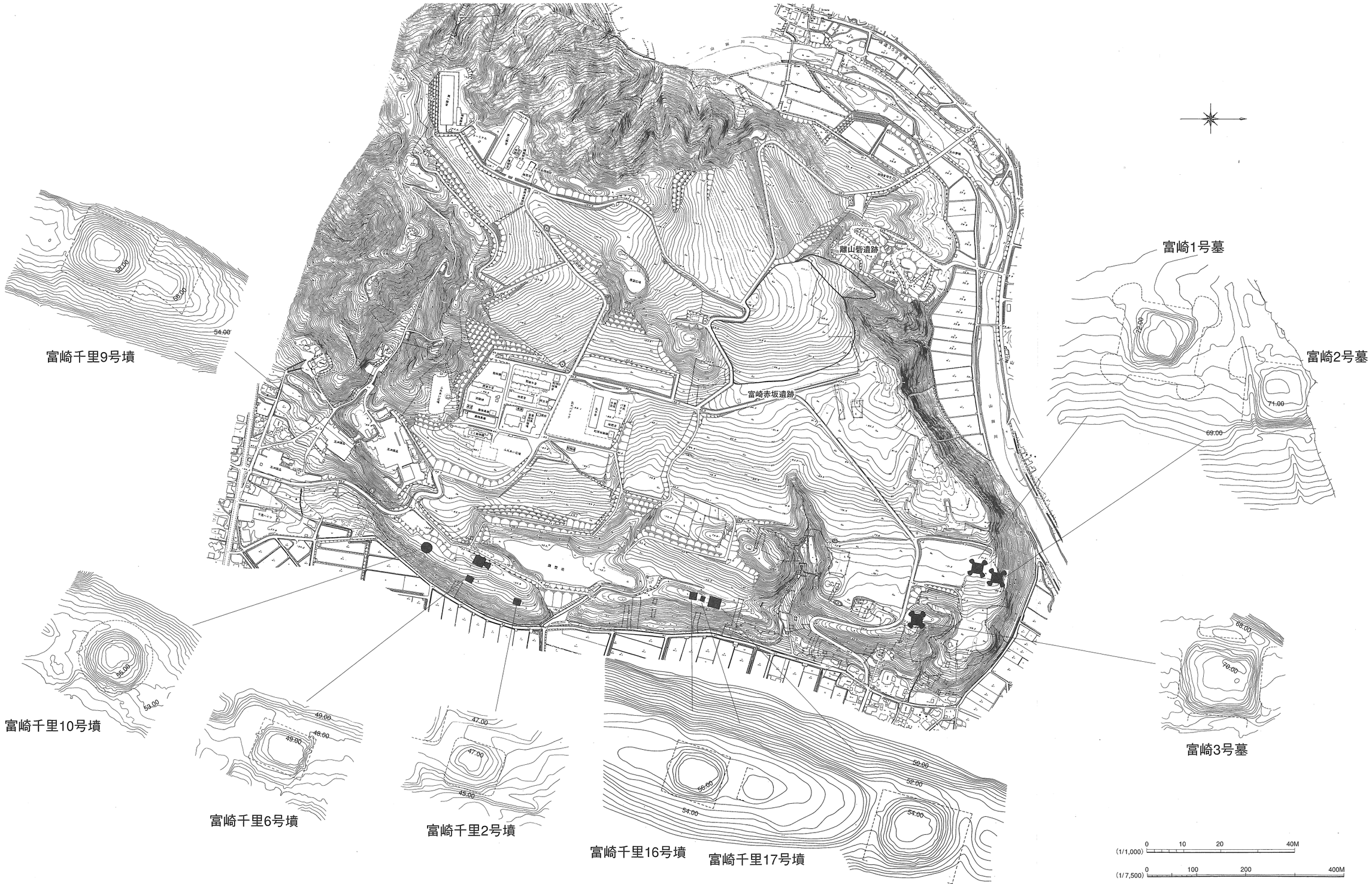
ア　赤塚次郎 1992「東海系のトレースー３・４世紀の伊勢湾沿岸地域―」『古代文化』44-6
赤塚次郎 1999「前方後方墳とのかかわり」『前方後円墳の出現』季刊考古学・別冊8
朝日新聞社 1996『アサヒグラフ別冊戦後50年古代史発掘総まくり』
石川考古学研究会シンポジウム実行委員会 1986『シンポジウム「月影式土器」について 報告編』
石川県立埋蔵文化財センター 1987「スタンプ文について」『吉竹遺跡』
石川県松任市教育委員会 1995『旭遺跡群』
出雲市教育委員会 1995『出雲・西谷墳墓群シンポジウム 四隅突出型墳丘墓の謎に迫る』
岩美町教育委員会 1999『新井三嶋谷遺跡発掘調査現地説明会資料』
宇野隆夫 1988「越中の国府・荘家・村落」『歴史と考古学』高井悌三郎先生喜寿記念論集
宇野隆夫 1992「食器計量の意義と方法」『国立歴史民俗博物館研究報告』第40集 国立歴史民俗博物館
大山スイス村埋蔵文化財発掘調査団、鳥取県大山町教育委員会 2000『妻木晩田遺跡発掘調査報告』
岡崎卯一 1966「婦中町添の山古墳の調査」『連絡紙８』富山考古学会
岡本淳一郎 1986「弥生・古墳時代集落の変遷―北陸地方の住居址群分析ノート」『大境』第10号 富山考古学会
岡本淳一郎 1991「婦中町富崎地内採集の遺物」『大境』第13号 富山考古学会
岡本淳一郎他 1999「佐野台地における古墳出現期の土器について」『富山考古学研究』紀要第２号
小田木治太郎 1989「北陸東部における古墳時代開始期の土器様相」『北陸の考古学Ⅱ 石川考古学研究会々誌』第32号 石川考古学研究会
カ　上市町教育委員会 1984『北陸自動車道遺跡調査報告―上市町土器・石器編―』
上市町教育委員会 1984『北陸自動車道遺跡調査報告―上市町木製品・総括編―』
金沢市教育委員会 1995『石川県金沢市上荒屋遺跡Ⅰ』金沢市文化財紀要120-2
金沢市、金沢市教育委員会 1996『西念・南新保遺跡Ⅳ』金沢市文化財紀要119

金沢市埋蔵文化財センター 1999『戸水遺跡群Ⅰ戸水ホコダ遺跡』金沢市文化財紀要150
久々忠義 1990「婦中町富崎四隅突出型墳丘墓」『富山県埋蔵文化財センター所報 埋文とやま』第32号
サ　山陰考古学研究会 1997『四隅突出型墳丘墓とその時代』第25回山陰考古学研究集会
財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所 1999『富山県指定史跡勅使塚古墳発掘調査レポート』
島根考古学会 1993『島根考古学会誌第10集10周年記念特集号』
タ　高岡市教育委員会 1992『市内遺跡調査概報』
高橋浩二 1995「北陸における古墳出現期の社会構造」『考古学雑誌』第80巻第３号
田嶋明人 1986「考察―漆町遺跡出土土器の編年的考察―」『漆町遺跡Ⅰ』石川県立埋蔵文化財センター
富山考古学会 1999『富山考古学会創立50周辺記念シンポジウム　富山平野の出現期古墳《発表要旨・資料集》』
富山県埋蔵文化財センター 1992『富山県埋蔵文化財センター年報』平成３年度
富山県埋蔵文化財センター・大門町教育委員会 1992『大門町企業団地内遺跡発掘調査報告(2)―布目沢北遺跡第３次調査―』
富山市教育委員会 1974『富山市杉谷地内埋蔵文化財予備調査報告書』
富山市教育委員会 1975『富山市杉谷（A・G・H）遺跡発掘調査報告』
富山市教育委員会 1984『富山市呉羽山丘陵古墳分布調査報告書』
富山大学人文学部考古学研究室 1990『越中王塚・勅使塚古墳 測量調査報告―北陸の前方後円・後方墳の一考察』
ナ　日本考古学会新潟大会実行委員会 1993『東日本における古墳出現過程の再検討』
ハ　氷見市教育委員会 2000『柳田布尾山古墳―第１次・第２次発掘調査の成果』氷見市埋蔵文化財調査報告第29冊
福井県清水町教育委員会 1997『小羽山』
福岡町教育委員会 1998『富山県福岡町下老子笹川遺跡発掘調査報告書』福岡町埋蔵文化財報告書第７冊
藤田富士夫 1999「高志の中の出雲文化」『海―海流に乗った恋物語―』島根県立八雲立つ風土記の丘夏季特別展
婦中町 1967『婦中町史』
婦中町 1997『婦中町史』
婦中町教育委員会 1986『富山県婦中町富崎・千里地区埋蔵文化財予備調査概要』
婦中町教育委員会 1989『新町王塚古墳図』
婦中町教育委員会 1995『千坊山遺跡(1)』
婦中町教育委員会 1996『千坊山遺跡(2)』
婦中町教育委員会 1998『千坊山遺跡(3)』
婦中町教育委員会 1998『富山県婦中町南部Ⅰ遺跡発掘調査報告』
婦中町教育委員会 2000『富山県婦中町南部Ⅰ遺跡発掘調査報告Ⅱ』
婦中町教育委員会 2000『富山県婦中町県営担い手育成基盤整備事業に係る埋蔵文化財包蔵地試掘調査報告書―婦中南部地区・千里地区』
古川登 1994「北陸の四隅突出型墳丘墓について」『大境』第16号富山考古学会
古里公民館・婦中町教育委員会1994『ふるさと―郷土の歴史と文化・再発見―』
マ　まつおか古代フェスティバル実行委員会 1997『発掘された北陸の古墳報告会資料集』
ヤ　安来市教育委員会 1999『荒島古墳群発掘調査報告書』安来市埋蔵文化財調査報告書第27集
谷内尾晋司 1983「北加賀における古墳出現期の土器について」『北陸の考古学 石川考古学研究会々誌第26号』石川考古学研究会
八尾町教育委員会 1997『翠尾Ⅰ遺跡発掘調査報告書１』
雄山閣 1996『日本土器事典』
吉岡康暢 1991『日本海域の土器・陶磁[古代編]』六興出版
ワ　渡辺貞幸他 1998『加茂岩倉遺跡と古代出雲』季刊考古学・別冊７



第83図　羽根・新町・長沢・外輪野地区における千坊山遺跡群分布図（1/7,500）及び墳丘墓・古墳測量図（1/1,000）

※全て方角は合致する。



第84図　富崎丘陵における千坊山遺跡群分布図（1/7,500）及び墳丘墓・古墳測量図（1/1,000）

※全て方角は合致する。

実測番号	遺跡名	出土地点	形態 器種	口径(cm)	口径遺存(/12)	底径(cm)	底径遺存(/12)	器高	色調 胎土 質	砂粒	焼成	外面	内面	赤彩 外面	内面	成形・調整 外面 口頸部・杯部・受部	胴上部・蓋	胴下部	脚・底部	内面 口頸部・杯部・受部	胴上部・蓋	胴下部	脚・底部	煤 外面	内面	擬凹線 凹線条数	備考
1	六治古塚	T2中央 5層	甕Aa5	18.00	1.00				密		良	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙			ナデ				ナデ ヘラ削り→ナデ?						口縁部 5	
2	六治古塚	T13 5層	甕Ab6	16.40	1.20				密		やや良	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙			ナデ				ナデ				有			
3	六治古塚	T8	壺A1	17.00	0.90				密		良	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR5/3 にぶい黄褐			ハケ→ミガキ				ナデ→ハケ							透孔1箇所残存
4	六治古塚	T8 7層	壺Bb3	11.40	1.10				密		良	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙	有	有	ナデ ハケ→ミガキ				ナデ,ミガキ							
5	六治古塚	T12	壺C1	8.00	1.00				密		やや良	7.5YR8/6 浅黄橙	7.5YR8/6 浅黄橙	有		ナデ→ミガキ				ハケ→ミガキ						口縁部 10	
6	六治古塚	T12	壺C1						密		良	10YR7/4 にぶい黄橙	7.5Y4/1 灰				ミガキ				ナデ					3	
7	六治古塚	T2中央 5層	縄文深鉢						密		やや良	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙							ミガキ							
8	六治古塚	T7 10層	壺胴部						密		やや良	10YR7/4 にぶい黄橙	7.5YR7/6 橙				ハケ→ミガキ				ハケ→ナデ ハケ→ミガキ						外面にヘラ描き
9	六治古塚	T12	高杯杯部A						密		やや良	10YR7/4 にぶい黄橙	7.5YR7/4 にぶい橙			ミガキ				ハケ→ミガキ						2	
10	六治古塚	T13 9層	高杯杯部A						密		良	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR8/4 浅黄橙			ハケ→ミガキ				調整不明							
11	六治古塚	T7 10層	高杯杯部A	23.00	0.70				密		やや良	10YR7/4 にぶい黄橙	7.5YR7/6 橙	有	有	ハケ→ミガキ				ハケ→ミガキ							
12	六治古塚	T6 11層	高杯杯部C	16.20	1.20				密		やや良	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙			ハケ→ミガキ				ハケ→ミガキ							
13	六治古塚	T12	器台受部A	推定 17.50	0.70				密		やや良	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙			ミガキ				ミガキ							
14	六治古塚	T2 8層	脚部A			14.60	0.40		密		やや良	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙						ミガキ				ハケ→ナデ				透孔1箇所残存
15	六治古塚	T12	器台脚部B						密		良	7.5YR8/6 浅黄橙	7.5YR6/6 橙	有	有	ハケ→ミガキ			ハケ→ミガキ	ハケ→ミガキ			ハケ→ミガキ ハケ	一部			透孔2箇所残存(推定4箇所)
16	六治古塚	T12	器台受部C/脚部D			13.20	1.00	8.90	密		やや不良	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR8/4 浅黄橙			ハケ→ミガキ			ハケ→ミガキ	ハケ→ミガキ			ハケ→ミガキ ハケ				
17	六治古塚	T8	甕or壺底部			2.40	12.00		密	2mm以下	やや良	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙						ハケ				ナデ				
18	六治古塚	T2 2層	甕or壺底部			5.80	2.00		密		やや良	7.5YR7/6 橙	10YR7/4 にぶい黄橙						ミガキ				ハケ→ミガキ				
19	六治古塚	T8 2層	鉢D						密		良	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR8/4 浅黄橙			ハケ→ミガキ				ミガキ							
20	六治古塚	T7 10層	蓋B						密	1mm以下	やや不良	7.5YR7/6 橙	7.5YR7/6 橙				調整不明				調整不明						
21	六治古塚	T6 11層	蓋C			5.90	12.00		密		やや良	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙				ハケ→ミガキ				ハケ→ミガキ						
22	六治古塚	T12	蓋			15.20	1.50		密		良	7.5YR6/6 橙	7.5YR6/6 橙				ハケ→ミガキ				ナデ,ミガキ						
23	六治古塚	T7 10層	蓋			10.00	1.50		密		やや不良	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR8/4 浅黄橙				ハケ→ミガキ				ハケ→ナデ						底縁部粘土あまり
24	六治古塚	T7 10層	蓋			12.60	1.50		密		やや良	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙				ミガキ				ナデ						
25	六治古塚	T6排土中	蓋C			16.00～18.00	1.20		密		やや不良	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙				ハケ→ミガキ				ミガキ						
26	六治古塚	T10 7層	須恵器・杯A	12.40	0.80	8.50	10.00	4.50	やや密		良	2.5Y5/2 暗灰黄	2.5Y5/3 黄褐			ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ, ヘラ削り	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ				
27	六治古塚	T2 2層	中世土師皿	11.00	1.00				密		良	7.5YR8/4 浅黄橙	7.5YR8/4 浅黄橙			ヨコナデ				ヨコナデ							てづくね口縁部にタール付着 外面に指頭圧痕
28	向野塚	T4NW2/3 2層	甕Aa5	18.60	0.60				密	1mm以下	良	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙			ナデ				ハケ→ナデ						口縁部 5	口縁部に工具キズ有
29	向野塚	T5N2/3 3か5層 T5N1/4 5か7層	甕Aa6	19.00	1.50				密		やや良	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙			ハケ→ナデ				ハケ→ナデ				有	有	口縁部 4	
30	向野塚	T11耕土中	甕Aa7	17.40	0.90				密		やや良	7.5YR8/6 浅黄橙	7.5YR8/6 浅黄橙			ナデ				ナデ,ハケ						口縁部 3	
31	向野塚	T1	甕Aa6	16.00	3.00				密		やや良	5YR6/6 橙	5YR6/6 橙			ナデ	ハケ			ナデ	ヘラ削り					口縁部 4	
32	向野塚	T1 W4/4 15層	甕Ab5	20.60	0.80				密	2mm以下	不良	10YR7/6 明黄褐	10YR7/6 明黄褐			調整不明				調整不明							
33	向野塚	T11	甕B1	16.80	0.90				密	1mm以下	やや不良	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙			ナデ				ハケ				有			
34	向野塚	T4	壺Ba1	推定 26.00	0.60				密	2mm以下 疎ら	やや良	5YR7/6 橙	2.5YR6/6 橙			ナデ				調整不明						口縁部 5	
35	向野塚	T1	壺Ba1	推定 30.00 程度	0.40				密	2mm以下	やや良	2.5YR6/8 橙	2.5YR6/8 橙			ナデ				ハケ						口縁部 7	
36	向野塚	T15中央西 T15サブトレ内	壺Ba2	推定 31.00	1.10				密		良	7.5YR7/6 橙	7.5YR7/6 橙			ハケ→ナデ?				ハケ→ナデ?						口縁部 3	口縁端部キザミ目
37	向野塚	T1W2/4 3層	甕or壺底部			7.60	2.60		密		良	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR6/6 明黄褐						ハケ				調整不明				
38	向野塚	T5N1/4溝内 5か7層	蓋			7.00	1.60		密		やや良	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙				ハケ→ナデ				ハケ→ナデ						
39	向野塚	T4	鉢D	11.50	1.60				密		やや良	10YR7/4 にぶい黄橙	5Y4/1 灰			調整不明	調整不明			ミガキ	ミガキ						
40	向野塚	T11耕土中	須恵器・杯B			6.60	2.80		密		良	N6/0 灰	N7/0 灰白						ロクロナデ				ロクロナデ				

表 9　遺物観察表①

実測番号	遺跡名	出土地点	形態						色調					赤彩		成形・調整								煤		擬凹線	備考
			器種	口径(cm)	口径遺存(/12)	底径(cm)	底径遺存(/12)	器高	胎土		焼成	外面	内面	外面	内面	外面				内面				外面	内面	凹線条数	
									質	砂粒						口頸部・杯部・受部	胴上部・蓋	胴下部	脚・底部	口頸部・杯部・受部	胴上部・蓋	胴下部	脚・底部				
41	向野塚	T11耕土中	須恵器・杯B			10.20	1.60		密		良	N7/0 灰白	N7/0 灰白						ロクロナデ				ロクロナデ				
42	向野塚	T3W1/4 1層	中世土師皿	14.00	1.00				密		良	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙			ヨコナデ				ヨコナデ							てづくね外面に指頭圧痕有
43	鏡坂1号墓	T1	甕Aa5	19.00	1.20				密	2mm以下	不良	2.5Y7/4 浅黄	2.5Y7/4 浅黄			ナデ				ナデ	ヘラ削り					口縁部 5	
44	鏡坂1号墓	T4	甕Ab5	19.40	1.50				密	2mm以下 少	やや不良	10YR7/6 明黄褐	10YR7/6 明黄褐			ナデ				ナデ							
45	鏡坂1号墓	T3	壺A3						密		やや良	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙			ナデ ハケ→一部ミガキ				ナデ,ハケ							
46	鏡坂1号墓	T5	壺C1						密		やや不良	10YR7/6 明黄褐	2.5Y6/3 にぶい黄					ミガキ				ナデ?					突帯に棒状浮紋2つ組で4箇所残存
47	鏡坂1号墓	T7	高杯杯部A	36.00	1.50				密		やや良	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙			ハケ→ミガキ				ハケ→ミガキ							
48	鏡坂1号墓	T4	鉢D	16.00	5.50				密	4mm以下 多	不良	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙			ハケ→ミガキ	ハケ→ミガキ	ハケ→ミガキ		調整不明	調整不明	調整不明					
49	鏡坂1号墓	T3	高杯杯部D	6.00	0.90				密		やや不良	10YR7/4 にぶい黄橙	7.5YR7/6 橙			ミガキ			ミガキ	ミガキ			ミガキ				
50	鏡坂1号墓	T3	脚部A			19.00	1.00		密		やや不良	10YR7/4 にぶい黄橙	7.5YR7/6 橙						磨耗,ミガキ?				ヘラ削り,ナデ				透孔2箇所残存(推定4箇所)
51	鏡坂1号墓	T5	脚部A			19.00	4.50		密		やや良	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙						ミガキ				ハケ→ナデ			4	
52	鏡坂1号墓	T1	中世土師皿	8.20	11.80				密		やや良	10YR8/4 浅黄橙	10YR8/4 浅黄橙			ヨコナデ											てづくね口縁部外面にタール付着 外面に指頭圧痕有
53	鏡坂1号墓	T1	中世土師皿	10.00	5.00				密		やや良	7.5YR7/4 にぶい橙	10YR7/4 にぶい黄橙			ヨコナデ											てづくね内外面にタール付着 外面に指頭圧痕有
54	鏡坂2号墓	T3	壺Bb1	20.00	0.8/0.9				密		良	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙			ナデ				ナデ							
55	鏡坂2号墓	T3	壺D	17.20	11.00				密		やや不良	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙			ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ハケ→ヘラ削り	ハケ→ヘラ削り	ハケ→ヘラ削り			口縁部	棒状浮文(2本組で6箇所)
56	鏡坂2号墓	T3	甕or壺底部			6.00	2.00		密		やや良	10YR7/4 にぶい黄橙	7.5Y3/1 オリーブ黒						ミガキ				ハケ→ヘラ削り				
57	鏡坂2号墓	T2	器台受部B1	30.00	0.70				密		やや良	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙			ナデ				ナデ→ミガキ						外面12	
58	鏡坂2号墓	T6	壺Bb2	19.70	0.50				密	1~2mm程度 少	やや不良	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙			ミガキ ナデ→ミガキ				ミガキ							
59	鏡坂2号墓	T5	壺Bb2	16.00	7.80				密	1mm程度 少	やや不良	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙			ハケ→ミガキ ナデ→ミガキ				ハケ→ミガキ							
60	鏡坂2号墓	T1	壺C1						密		やや不良	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/1にぶい黄橙 磨耗後N4/0灰					ミガキ			調整不明						
61	鏡坂2号墓	T2	高杯杯部A	28.40	9.00				密		やや良	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙			ナデ,ミガキ				ナデ,ミガキ							
62	鏡坂2号墓	T1	高杯杯部E	11.60	1.60				密		やや良	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙			ミガキ				ハケ→ミガキ						3	
63	鏡坂2号墓	T1	器台脚部A						密		やや不良	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙						調整不明				調整不明				
64	鏡坂2号墓	T1	器台脚部B			11.80	8.00		密		やや良	2.5Y7/2 灰黄	N3/0 暗灰			ハケ→ミガキ			ミガキ	ミガキ			ハケ→ミガキ				脚部透孔(正面のみ2つ組で5箇所)
65	鏡坂2号墓	T2	鉢A	18.00	6.50	2.90	6.00	9.50	密		やや不良	10YR7/6 明黄褐	10YR7/6 明黄褐			ナデ	調整不明	調整不明	調整不明	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ			口縁部 12	
66	鏡坂2号墓	T1	蓋A			10.40	4.60		密		やや不良	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙			ナデ	調整不明				ナデ			有	有		孔径1.0cm
67	富崎3号墓	T2	甕Aa3	14.00	1.30				密	疎ら	やや良	7.5YR7/6 橙	10YR7/4 にぶい黄橙			ナデ	ハケ			ハケ→ナデ	ヘラ削り						
68	富崎3号墓	T5	甕Aa4	14.50	10.00				密	5mm以下 多	やや不良	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙			ヨコナデ	ハケ	ハケ	ヘラ削り	ヨコナデ	ヘラ削り	ヘラ削り	ヘラ削り	有		口縁部 2	
69	富崎3号墓	T2	甕Ab1	17.20	0.30				密	1~2mm程度	良	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐			ハケ→ナデ				ハケ→ナデ				有			口縁部下端キザミ目
70	富崎3号墓	T5	甕Ab1	16.00	1.10				密	含	良	2.5Y6/3 にぶい黄	2.5Y6/3 にぶい黄			ナデ	ナデ			ハケ→ナデ	ヘラ削り						
71	富崎3号墓	T1(S)	甕Ab2	19.50	0.50				密	2mm以下	やや不良	2.5YR5/6 明赤褐	10YR6/4 にぶい黄橙			ナデ				ナデ				有			
72	富崎3号墓	T1	甕Ab2	19.50	1.00				密	1~2mm	不良	10YR7/6 明黄褐	10YR7/6 明黄褐			ナデ				ナデ				有			
73	富崎3号墓	T2	甕Ab2	15.50	1.00				密		やや良	7.5YR7/6 橙	7.5YR7/6 橙			ミガキ				ナデ→ミガキ							
74	富崎3号墓	T2	甕Ab3	19.20	1.00				密	1~2mm程度	やや不良	2.5Y6/2 灰黄	2.5Y5/2 暗灰黄			ナデ				ナデ							
75	富崎3号墓	T10	甕Ab3	17.00	1.20				密		やや良	7.5YR6/6 橙	7.5YR6/6 橙			ハケ→ナデ				ナデ	板ナデ			有			内外面に指頭圧痕有
76	富崎3号墓	T1	甕Ab3	19.00	0.50				密	1~2mm程度 疎ら	やや不良	10YR6/3 にぶい黄橙	2.5Y7/4 浅黄			板ナデ				板ナデ				有			
77	富崎3号墓	T4 遺物集中区	甕Ab4	22.00	1.20				密	1~2mm 多	不良	5YR7/8 橙	5YR7/8 橙			調整不明				調整不明							
78	富崎3号墓	T12	甕Ab7	11.00	4.20				密	1~2mm	やや良	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙			ナデ	ハケ→ナデ消し 一部ヘラ削り			ハケ→ナデ	ハケ→ヘラ削り						
79	富崎3号墓	T4 遺物集中区	甕Ab7	19.00	1.00				密		やや良	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙			ナデ				ナデ							
80	富崎3号墓	T4	甕B1	15.00	1.50				密		やや不良	7.5YR7/6 橙	7.5YR7/6 橙			ナデ	ハケ			ナデ							

表10　遺物観察表②

実測番号	遺跡名	出土地点	形態						色調					赤彩		成形・調整								煤		擬凹線	備考
			器種	口径(cm)	口径遺存(/12)	底径(cm)	底径遺存(/12)	器高	胎土		焼成	外面	内面	外面	内面	外面				内面				外面	内面	凹線条数	
									質	砂粒						口頸部・杯部・受部	胴上部・蓋	胴下部	脚・底部	口頸部・杯部・受部	胴上部・蓋	胴下部	脚・底部				
81	富崎3号墓	T2	甕B1	14.00	1.50				密	1~3mm程度	やや不良	2.5Y7/4 浅黄	2.5Y7/4 浅黄			ナデ				ナデ				有			
82	富崎3号墓	T4 遺物集中区	甕B1	13.00	1.30				密		やや良	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙			ナデ	ハケ			ナデ,ハケ							
83	富崎3号墓	T2	甕B2	11.40	2.00				密	1~3mm程度	やや良	10YR7/4 にぶい黄橙	5YR6/6 橙			ナデ	ナデ			ナデ	調整不明						
84	富崎3号墓	T2	甕Ab4	16.00	1.10				密	3mm以下		10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙			ナデ	ハケ→ナデ			ナデ	ヘラ削り						
85	富崎3号墓	T11	甕B3	17.00	9.20				密	1~2mm程度	やや不良	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙			ハケ	ハケ	ハケ		ハケ→ナデ	ヘラ削り	ヘラ削り		有			
86	富崎3号墓	T2	壺A2	18.00	0.50				密		やや良	7.5YR6/6 橙	7.5YR6/6 橙			ナデ ハケ→ミガキ				ナデ,ハケ							
87	富崎3号墓	T3畦 3層	須恵器・壺	18.00	0.80				密		良	N3/0 暗灰	7.5Y5/1 灰			ナデ				ナデ							
88	富崎3号墓	T12	壺A1			4.50	7.00		密		やや良	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙			ハケ	ハケ,一部ナデ消し	ハケ,一部ナデ消し	ハケ,一部ナデ消し	ハケ,一部ナデ消し	ハケ,一部ナデ消し	ハケ,一部ナデ消し	ハケ,一部ナデ消し				くびれ部に3条のヘラ描き
89	富崎3号墓	T4 墳丘盛土	壺A2	13.00	1.40				密		やや不良	7.5YR7/6 橙	10YR7/4 にぶい黄橙			ナデ,ハケ				ナデ							
90	富崎3号墓	T2	壺A2	17.00	1.30				密		やや良	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙			ハケ?				ハケ							
91	富崎3号墓	T1(S)	壺A4	20.00	3.90				密		やや良	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙			ナデ	ナデ			ナデ	ナデ					外面頸部2	
92	富崎3号墓	T1	壺Ba1	13.50	1.50				密		やや良	7.5YR7/4 にぶい橙	7.5YR7/6 橙			ナデ,板ナデ				ナデ							
93	富崎3号墓	T12 T12西壁	壺Bb1	10.40	3.00				密		やや良	2.5YR5/6 明赤褐	2.5YR5/6 明赤褐	有	有	ミガキ	ミガキ	ミガキ		ミガキ	ハケ→ミガキ	ヘラ削り					
94	富崎3号墓	T8	壺Bb2	12.10	1.00				密		やや良	5YR5/4 にぶい赤褐	5YR7/6 橙			ハケ→ミガキ				ハケ→ミガキ							
95	富崎3号墓	T4(?)	壺Bb2						密	1~2mm 多	やや不良	10YR7/6 明黄褐	5YR6/6 橙			調整不明				調整不明	ヘラ削り						
96	富崎3号墓	T2	壺Bb2	14.40	0.50				密	3mm以下	良	10YR4/2 灰黄褐	10YR4/2 灰黄褐			ナデ,ミガキ				ナデ,ミガキ							
97	富崎3号墓	T8	壺C1						密		やや良	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙	有			ナデ→ミガキ	ナデ→ミガキ			ハケ	ナデ					
98	富崎3号墓	T11	壺C1						密		やや良	10YR7/4 にぶい黄橙	7.5Y3/1 オリーブ黒	有			ミガキ	ミガキ	ミガキ		ナデ	ハケ,ミガキ	ミガキ				
99	富崎3号墓	T5	壺D	44.00	0.50				密	1~2mm程度	やや良	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙			ハケ→ナデ				調整不明						口縁部下6	口縁端部キザミ目と同心円のスタンプ文
100	富崎3号墓	T1(S)	壺胴部						密		やや良	2.5Y7/3 浅黄	N3/0 暗灰				ミガキ,ナデ ハケ→ミガキ				ナデ						内面に多数の指頭圧痕有
101	富崎3号墓	T12	壺胴部						密		良	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙	有			ハケ→ミガキ				ヘラ削り,ハケ						
102	富崎3号墓	T2	壺C2	15.80	12.00				密		やや良	10YR7/4 にぶい黄橙	7.5YR7/6 橙	有		ハケ→ナデ	ハケ→(ナデ→)ミガキ	ハケ→(ナデ→)ミガキ		ハケ→(ナデ→)ミガキ	ハケ→ヘラ削り	ハケ→ヘラ削り	ハケ			口縁部9	胴上部に勾玉形の赤彩4箇所残存(推定6箇所),突帯に4箇所の切込有
103	富崎3号墓	T9	壺D	19.00	12.00				密		不良	10YR7/6 明黄褐	10YR7/6 明黄褐			ナデ,ミガキ				ハケ→ミガキ						6	中央に円形スタンプを押した円形浮文5箇所(正面は4つ組,他は2つ組)
104	富崎3号墓	T10	壺C1						密	5mm以下 少	やや不良	2.5Y7/4 浅黄	2.5Y7/4 浅黄					ナデ	ハケ			ナデ	ヘラ削り				
105	富崎3号墓	T4	甕or壺底部			3.50	12.00		密		やや良	2.5Y5/2 暗灰黄	10YR6/4 にぶい黄橙						ハケ				ハケ				
106	富崎3号墓	T1(S)	甕or壺底部			4.80	6.00		密		良	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙						ハケ				ハケ				
107	富崎3号墓	T2	甕or壺底部			3.80	4.30		密	3mm以下 多	不良	2.5Y6/4 にぶい黄	2.5Y7/4 浅黄						ハケ				調整不明	有			
108	富崎3号墓	T10SK02	甕or壺底部			5.00	12.00		密		やや不良	7.5YR6/6 橙	2.5Y4/1 黄灰						ハケ				ハケ→ヘラ削り		有		内面にコゲ
109	富崎3号墓	T1	甕or壺底部			4.00	5.50		密		良	10R5/6 赤	7.5YR5/3 にぶい褐						ハケ				ヘラ削り	底部			
110	富崎3号墓	T2	甕or壺底部			5.00	4.00		密	1~2mm程度	やや不良	5YR5/6 明赤褐	2.5Y5/2 暗灰黄						ヘラ削り				ハケ				
111	富崎3号墓	T5	甕or壺底部			3.70	12.00		密		やや良	10YR4/2 灰黄褐	7.5YR6/6 橙						ヘラ削り				ハケ	有			
112	富崎3号墓	T2	甕or壺底部			4.60	6.00		密	3mm以下 多	やや不良	5YR5/6 明赤褐	2.5Y4/2 暗灰黄						ヘラ削り				ハケ				
113	富崎3号墓	T5	甕or壺底部			7.00	2.00		密		やや良	10YR6/4 にぶい黄橙	5Y3/1 オリーブ黒						ハケ→ヘラ削り				ハケ				
115	富崎3号墓	T4	甕or壺底部			2.20	12.00		密		やや不良	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙						ヘラ削り→ミガキ				調整不明				
116	富崎3号墓	T4	甕or壺底部			6.00	3.20		密		やや良	10YR5/3 にぶい黄褐	2.5Y3/1 黒褐						ナデ?				ハケ				外面に指頭圧痕有
117	富崎3号墓	T12	甕or壺底部			7.00	3.50		密		やや良	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙						ミガキ				ハケ→ヘラ削り				
118	富崎3号墓	T4 遺物集中区	甕or壺底部			6.50	1.30		密	3mm以下 多	やや良	10YR7/6 明黄褐	10YR7/6 明黄褐						ミガキ				ハケ				
119	富崎3号墓	T10SK02	蓋A						密		やや不良	5YR6/6 橙	5YR6/6 橙				ミガキ?ナデ?				ミガキ?ナデ?						
120	富崎3号墓	T12	蓋B			8.20	10.20		密		やや良	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙				ミガキ				ハケ→ナデ						
121	富崎3号墓	T3	蓋B						密		良	5YR6/6 橙	5YR6/6 橙				ハケ→ミガキ				ハケ						

表11　遺物観察表③

実測番号	遺跡名	出土地点	形態						色調					赤彩		成形・調整								煤		擬凹線	備考
			器種	口径(cm)	口径遺存(/12)	底径(cm)	底径遺存(/12)	器高	胎土		焼成	外面	内面	外面	内面	外面				内面				外面	内面	凹線条数	
									質	砂粒						口頸部・杯部・受部	胴上部・蓋	胴下部	脚・底部	口頸部・杯部・受部	胴上部・蓋	胴下部	脚・底部				
122	富崎3号墓	T4	小型壺	5.50	1.50				密		良	10YR5/4 にぶい黄褐	10YR5/4 にぶい黄褐			ナデ				ナデ,ハケ							
123	富崎3号墓	T12	蓋D			4.50	10.00		密		やや良	5YR6/6 橙	5YR6/6 橙				ナデ,ミガキ				ミガキ			有	有		
124	富崎3号墓	T1	器種不明						密		やや不良	10YR6/4 にぶい黄橙	7.5YR6/4 にぶい橙				ミガキ				調整不明						平行横線文と外円が波状文になる同心円のスタンプ文
125	富崎3号墓	T2	器種不明						密		良	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙				ミガキ				ハケ→ミガキ						平行横線文と鋸歯スタンプ文
126	富崎3号墓	T2	器種不明						密		良	10YR3/1 黒褐	10YR5/4 にぶい黄褐				ミガキ				ミガキ						平行横線文と鋸歯スタンプ文
127	富崎3号墓	T4	高杯杯部A	35.00	6.50				密		不良	5YR5/8 明赤褐	5YR5/8 明赤褐			ミガキ?				ミガキ?						口縁部2 杯下部2	
128	富崎3号墓	T2	高杯杯部A	24.00	1.00				密		良	7.5YR5/4 にぶい褐	10YR4/1 褐灰			ハケ→ミガキ				ハケ→ミガキ							
129	富崎3号墓	T2	高杯杯部B	35.20	2.80			12.20	密	1~2mm程度	やや良	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	有	有	ミガキ				ミガキ							
130	富崎3号墓	T2	高杯杯部A	28.00	1.00				密		やや良	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙			ミガキ				ミガキ							
131	富崎3号墓	T2	高杯脚部B						密		やや不良	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	有					ミガキ				ヘラ削り				透孔2箇所残存(推定4箇所)
132	富崎3号墓	T13 8層	高杯脚部B						密		やや不良	7.5YR6/6 橙	7.5YR7/6 橙						ミガキ				ヘラ削り?				透孔1箇所残存(推定5箇所)
133	富崎3号墓	T1	高杯脚部B						密		やや良	10YR7/4 にぶい黄橙	7.5YR7/6 橙						ミガキ				ヘラ削り?				
134	富崎3号墓	T4	高杯脚部C						密		良	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙			ミガキ			ハケ→ミガキ	ハケ→ミガキ			ハケ→ナデ消し				透孔4箇所
135	富崎3号墓	T12	脚部			16.00	1.60		密		やや良	10R4/8 赤	10YR6/4 にぶい黄橙	有					ハケ→ミガキ				ナデ				
136	富崎3号墓	T1	高杯杯部A	29.00	1.30				密		やや良	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙			ミガキ				ミガキ							
137	富崎3号墓	T4	高杯杯部A	28.00	2.20				密		不良	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙			ミガキ				ミガキ							
138	富崎3号墓	T2	脚部A						密		やや不良	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙						ハケ→ミガキ				板ナデ?				
139	富崎3号墓	T2	脚部B			17.00	1.50		密	3mm以下	良	10YR4/2 灰黄褐	10YR5/4 にぶい黄褐						ハケ→ナデ				ナデ→ミガキ				
140	富崎3号墓	T2	器台受部B1	24.80	0.75				密	1~2mm程度	良	7.5YR6/6 橙	7.5YR6/6 橙	有	有	ナデ				ミガキ						11	
141	富崎3号墓	T2	器台受部B1	24.80	1.90				密		やや良	7.5YR6/6 橙	10YR7/4 にぶい黄橙	有	有	ナデ,ミガキ				ミガキ						11	
142	富崎3号墓	T2	器台受部B2	26.00	1.00				密		やや良	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙			ミガキ				ミガキ						有?	
143	富崎3号墓	T11	器台受部A	29.00	0.50				密		やや良	7.5YR7/6 橙	7.5YR7/6 橙	一部	一部	ミガキ				ハケ→ミガキ							
144	富崎3号墓	T12	器台受部A	26.20	1.00				密		やや良	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙	有	有	ミガキ				ミガキ							
145	富崎3号墓	T2	器台受部B2						密		やや良	10YR6/6 明黄褐	10YR6/6 明黄褐	有	有	調整不明				調整不明							
146	富崎3号墓	T2	器台受部B2	31.00	1.00			6.25 (残存部)	密	1~2mm程度	やや良	10YR7/6 明黄褐	10YR7/6 明黄褐			調整不明				調整不明							
147	富崎3号墓	T1	器台受部B2	29.40	1.50				密	3mm以下	不良	5YR7/8 橙	5YR7/8 橙			調整不明			調整不明	調整不明			調整不明				
148	富崎3号墓	T4	器台受部B2	18.00	0.90				密		良	10YR6/4 にぶい黄橙	2.5Y3/1 黒褐			ハケ→ミガキ				ハケ→ミガキ							
149	富崎3号墓	T2 盛土状斜面付近	脚部A			19.00	0.50		密		やや良	2.5Y6/3 にぶい黄	2.5Y6/3 にぶい黄	有					ミガキ				ナデ			8	
150	富崎3号墓	T2	脚部A			16.20	6.00		密	1~2mm程度	不良	10YR7/6 明黄褐	10YR7/6 明黄褐						調整不明				調整不明				透孔(2つ組で3箇所)
151	富崎3号墓	T4	脚部A			16.00	1.20		密		やや良	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙						ミガキ				ミガキ				
152	富崎3号墓	T10	磨製石斧																								石材：頁岩?
153	富崎3号墓	T1	土師器・碗底部			5.50	12.00		密		不良	7.5YR6/6 橙	7.5YR6/6 橙					ロクロナデ	回転糸切り				ロクロナデ				
154	富崎3号墓	T12	須恵器・杯			8.00	5.20		密		不良 (酸化軟質)	2.5Y7/2 灰黄	2.5Y7/2 灰黄					ロクロナデ	ヘラ切り				ロクロナデ				
155	富崎3号墓	T1	土師器・甕	3.00	2.00				密		やや良	10YR6/4 にぶい黄橙	7.5YR6/4 にぶい橙			ロクロナデ				ロクロナデ							
156	富崎3号墓	T7	越中瀬戸・碗	12.00	1.10				密		良	10YR1.7/1 黒	10YR1.7/1 黒														内外面鉄釉(外面底部無し)
157	富崎3号墓	T10SK02	甕B1	19.00	4.20				やや密	1~2mm	やや不良	7.5YR7/4 にぶい橙	10YR7/6 明黄褐			板ナデ	ハケ→ナデ	ハケ→ナデ		ナデ	ヘラ削り	ヘラ削り		有			
158	富崎3号墓	T10SK02	壺A1	14.20	9.50	5.20	12.00	24.00	密		やや良	10YR6/6 明黄褐	10YR6/6 明黄褐			ハケ,一部ナデ消し	ハケ,一部ナデ消し	ハケ,一部ナデ消し	ハケ	ハケ,一部ナデ消し	ハケ,一部ナデ消し	ハケ,一部ナデ消し	ヘラ削り	有			
159	富崎3号墓	T10SK02	壺A	頸部 11.00	2.80				密	1~2mm程度	やや不良	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙			ハケ→ミガキ	ハケ→ミガキ	ハケ→ミガキ		ハケ	ハケ→ヘラ削り	ハケ→ヘラ削り					
160	富崎3号墓	T10SK02	壺A1			6.60	12.00		密		やや不良	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙			ハケ	ハケ	ハケ	ハケ	ハケ	ヘラ削り	ハケ→ヘラ削り	ハケ	有			
161	富崎3号墓	T10SK02	壺A3	16.00	12.00	5.40	12.00		密		やや良	7.5YR7/6 橙	7.5YR7/6 橙			ハケ→ナデ→ミガキ	ハケ→ミガキ	ハケ→ミガキ	ハケ→ミガキ	ハケ→ミガキ	ハケ,ナデ消し	ハケ	ハケ	有			内面に指頭圧痕有

表12　遺物観察表④

実測番号	遺跡名	出土地点	形態						色調					赤彩		成形・調整								煤		擬凹線	備考
			器種	口径(cm)	口径遺存(/12)	底径(cm)	底径遺存(/12)	器高	胎土		焼成	外面	内面	外面	内面	外面				内面				外面	内面	凹線条数	
									質	砂粒						口頸部・杯部・受部	胴上部・蓋	胴下部	脚・底部	口頸部・杯部・受部	胴上部・蓋	胴下部	脚・底部				
162	富崎赤坂遺跡	T11	甕Aa2	20.00	1.00				密	3mm以下	やや不良	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙			ナデ				ナデ							
163	富崎赤坂遺跡	T4	鉢	19.50	6.75				密		やや良	10YR6/6 明黄褐	10YR6/6 明黄褐			ナデ				ナデ						3	
164	富崎赤坂遺跡	T4	甕Aa5	16.00	0.80				密	5mm以下	やや良	7.5YR7/6 橙	7.5YR7/6 橙			ナデ				ナデ						4	
165	富崎赤坂遺跡	T4	甕Ab1	15.00	0.70				密		やや不良	7.5YR7/6 橙	7.5YR7/6 橙			ナデ	ハケ			ナデ				有			
166	富崎赤坂遺跡	T4	甕Ab1	17.00	2.00				密	5mm以下 多	やや不良	10YR7/6 明黄褐	10YR7/6 明黄褐			調整不明				ナデ	ヘラ削り						
167	富崎赤坂遺跡	T12	甕Ab1	18.00	1.50				密	3mm以下	不良	10YR6/6 明黄褐	10YR6/6 明黄褐			ナデ ハケ→ナデ	ハケ→ナデ			ハケ→ナデ	ヘラ削り						
168	富崎赤坂遺跡	T4	甕Ab3	15.00	2.90				密		やや良	10YR7/6 明黄褐	10YR7/6 明黄褐			ナデ				ナデ							
169	富崎赤坂遺跡	T4	甕Ab3	15.40	3.30				密		良	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙			ナデ	ハケ→ナデ			ハケ→ナデ	ヘラ削り			有			内面に指頭圧痕有
170	富崎赤坂遺跡	T4	甕Ab4	17.00	1.20				密		やや良	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙			ナデ				ナデ				有			
171	富崎赤坂遺跡		甕Ab4	20.00	0.4/0.5				密	1~2mm程度	やや不良	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR7/6 明黄褐			ナデ,ハケ				ナデ							亀田氏採集
172	富崎赤坂遺跡	T4	甕Ab5	11.00	1.00				密		やや良	7.5YR6/4 にぶい橙	10YR7/4 にぶい黄橙			ナデ				ナデ							
173	富崎赤坂遺跡	T11	甕B1	14.00	6.50				密		やや良	5YR5/4 にぶい赤褐	5YR6/6 橙			ナデ	ハケ,(一部ナデ消し)			ナデ,ハケ	ヘラ削り			有	有		
174	富崎赤坂遺跡	T11	甕B1	17.00	1.10				密	1~2mm程度	やや良	5YR5/6 明赤褐	5YR5/6 明赤褐			ナデ ハケ→ナデ消し	ハケ			ナデ	ハケ→ナデ消し			有			
175	富崎赤坂遺跡	T12	甕B1	15.00	3.80				密	3mm以下	やや良	10YR7/6 明黄褐	10YR7/6 明黄褐			ナデ,ハケ	ハケ			ナデ,ハケ	ヘラ削り						
176	富崎赤坂遺跡	T12	甕胴部						密	3mm以下	やや良	2.5Y6/3 にぶい黄	2.5Y7/4 浅黄					ハケ				ヘラ削り		有			
177	富崎赤坂遺跡	T4	甕B1	17.00	2.40				密		やや不良	5Y4/1 灰	7.5YR6/6 橙			ナデ(板ナデ?)				ナデ?				有			
178	富崎赤坂遺跡	T11	甕B2	14.50	4.50				密		不良	10YR2/1 黒	7.5YR7/6 橙			ハケ				調整不明							
179	富崎赤坂遺跡	T12	甕B2	16.00	1.00				密		やや良	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙			ハケ→ナデ消し				ハケ→ナデ消し							
180	富崎赤坂遺跡	T12	甕胴部						密	3mm以下	やや不良	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙					ハケ→ナデ消し				ヘラ削り					胴部の径16.5cm
181	富崎赤坂遺跡	T12	甕Ab4	15.00	11.00	5.00	12.00	22.30	密	3mm以下	やや不良	2.5Y7/3 浅黄	2.5Y7/3 浅黄			ナデ	ハケ→ナデ消し	ハケ	ハケ,ナデ消し	ナデハケ→ナデ	ハケ→ナデ	ハケ→ナデ	ハケ	有	有		内面にナデ
182	富崎赤坂遺跡	T11	甕Ab4	13.00	3.90	3.20	7.00		密		やや良	5YR6/6 橙	5YR6/6 橙			ナデ	ハケ	ハケ	ハケ	ナデ	ヘラ削り	ヘラ削り	ヘラ削り	有			内面に指頭圧痕有
183	富崎赤坂遺跡	T12	甕Ab5	16.00	8.00				密		やや良	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙			ヨコナデ	ハケ	ハケ		ナデ	ハケ→ヘラ削り	ナデ→ヘラ削り		有			内面にナデ
184	富崎赤坂遺跡	T12	甕B2	15.00	6.50				密	1~2mm程度	やや不良	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙			ナデ	ハケ(磨耗)	ハケ	ハケ	ナデ	ハケ→板ナデ	ハケ→板ナデ	ハケ→板ナデ				
185	富崎赤坂遺跡	T4	壺A1	18.00	1.20				密		やや良	2.5Y7/4 浅黄	2.5Y5/2 暗灰黄			ハケ→ナデ消し				ハケ→ナデ消し	ハケ						
186	富崎赤坂遺跡	T12	壺A1	13.00	10.00				密		やや良	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙			ハケ→ナデ ハケ	ハケ	ハケ		ハケ→ナデ消し ハケ	ハケ→ナデ消し	ハケ→ナデ消し ハケ	ハケ	有			口縁部短径12.0cm 内面にナデ
187	富崎赤坂遺跡	T11	壺A1	12.80	2.00				密		やや良	5YR6/6 橙	5YR6/6 橙			ハケ→ナデ消し				ハケ→ナデ 板ナデ							
188	富崎赤坂遺跡	T12	壺A3	16.40	2.00				密	1~2mm以下	良	7.5YR6/6 橙	7.5YR6/6 橙			ナデ,ハケ				ハケ→ナデ							口縁端部内面に3条ヘラ刺突
189	富崎赤坂遺跡	T12	壺Bb1	15.00	2.00				密	1~2mm程度少	やや不良	10YR7/6 明黄褐	2.5Y3/1 黒褐			ハケ→ミガキ				調整不明							
190	富崎赤坂遺跡		壺C1						密	1~2mm程度少	やや不良	10YR7/4 にぶい黄橙	2.5Y5/2 暗灰黄				ナデ?				ナデ					突帯部 2	亀田氏採集
191	富崎赤坂遺跡	T11	壺C1						やや密			10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙	一部			ハケ→ミガキ				ハケ→ナデ						突帯に棒状浮文2つ以上組で1箇所残存
192	富崎赤坂遺跡	T12	蓋B			4.20	2.00	2.90	密	1mm程度少	やや不良	5YR6/6 橙	5YR6/6 橙				ミガキ				ハケ→ナデ						
193	富崎赤坂遺跡	T12	蓋B						密	1~2mm程度	やや不良	7.5YR6/6 橙	7.5YR6/6 橙				調整不明				調整不明						
194	富崎赤坂遺跡	T11	高杯杯部A	27.00	2.00				密		やや不良	10YR7/6 明黄褐	7.5YR7/6 橙			ミガキ				ミガキ							
195	富崎赤坂遺跡	T13	高杯杯部C	21.40	0.50				密		やや不良	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙			ミガキ,ナデ				ミガキ							
196	富崎赤坂遺跡	T11	脚部A						密		やや不良	7.5YR7/6 橙	7.5YR7/6 橙						調整不明				調整不明				1箇所残存
197	富崎赤坂遺跡	T4	脚部A						密		やや良	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/6 明黄褐	有	有				ミガキ				ハケ→ナデ			3	透孔2つ組で1箇所残存
198	富崎赤坂遺跡	T12	脚部A			18.00	9.00		密	1~2mm程度	やや良	10YR8/3 浅黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	有					ミガキ				ハケ→ナデ			7	透孔2つ組で3箇所残存(推定4箇所)
199	富崎赤坂遺跡	T4	高杯脚部A						密		やや良	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	下部					ミガキ				ナデ				
200	富崎赤坂遺跡	T4	脚部A						密		やや良	2.5YR5/6 明赤褐	2.5YR6/6 橙						ミガキ				調整不明,一部ハケ				
201	富崎赤坂遺跡	T4	高杯脚部B						密		やや不良	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙						ミガキ				ハケ→ヘラ削り				

表13　遺物観察表⑤

実測番号	遺跡名	出土地点	形態						色調					赤彩		成形・調整								煤		擬凹線	備考
			器種	口径(cm)	口径遺存(/12)	底径(cm)	底径遺存(/12)	器高	胎土		焼成	外面	内面	外面	内面	外面				内面				外面	内面	凹線条数	
									質	砂粒						口頸部・杯部・受部	胴上部・蓋	胴下部	脚・底部	口頸部・杯部・受部	胴上部・蓋	胴下部	脚・底部				
202	富崎赤坂遺跡		脚部B						密		やや不良	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR4/1 褐灰						ミガキ				ハケ→ナデ消しorミガキ				亀田氏採集
203	富崎赤坂遺跡	T4	脚部			15.0	1.50		密		やや良	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙						ミガキ				ハケ,ナデ消し				内面に指頭圧痕有
204	富崎赤坂遺跡	T4	脚部			21.0	3.00		密		やや良	7.5YR6/6 橙	7.5YR6/6 橙						ミガキ?,ナデ				ナデ				
205	富崎赤坂遺跡	T12	鉢A	40.00	0.50				密	1～2mm	良	7.5YR7/6 橙	7.5YR7/6 橙			ハケ→ナデ→ミガキ				ミハケ→ミガキ				有		口縁部2	
206	富崎赤坂遺跡	T12	甕or壺底部			4.00	5.00		密		やや不良	10YR6/4 にぶい黄橙	5Y2/1 黒						ハケ				ハケ		有		
207	富崎赤坂遺跡	T12	甕or壺底部			2.80	11.00		密	2mm以下	やや良	2.5Y5/2 暗灰黄	2.5Y3/1 黒褐						ハケ→ヘラ削り				ハケ				
208	富崎赤坂遺跡	T11	甕or壺底部			4.00	3.00		密	2mm以下多	やや不良	10R5/6 赤	7.5YR7/6 橙						ハケ				調整不明				
209	富崎赤坂遺跡	T12	甕or壺底部			4.40	7.00		密	3mm以下	やや不良	10YR4/2 灰黄褐	2.5Y6/4 にぶい黄						ハケ				ハケ→ナデ消し	有			
210	富崎赤坂遺跡	T12	甕or壺底部			6.00	5.30		密	1～2mm程度	やや不良	10YR6/6 明黄褐	10YR6/6 明黄褐						ハケ,ヘラ削り				ハケ				
211	富崎赤坂遺跡	T4	甕or壺底部			5.40	12.00		密		やや良	7.5YR7/6 橙	7.5YR7/6 橙						ハケ,ナデ				ハケ	有	有		内面にコゲ
212	富崎赤坂遺跡	T4	甕or壺底部			4.50	9.00		密		良	10YR5/6 黄褐	5Y2/1 黒						ハケ								内面にコゲ
213	富崎赤坂遺跡	T12	甕or壺底部			3.30	12.00		密	4mm以下	やや不良	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙						ナデ				ナデ				
214	富崎赤坂遺跡	T4	甕or壺底部			4.20	12.00		密		良	7.5YR6/6S 橙	7.5YR6/6 橙						ハケ→ミガキ ヘラ削り				ハケ				
215	富崎赤坂遺跡	T4	甕or壺底部			4.50	6.50		密	1～3mm	やや不良	10YR6/6 明黄褐	10YR6/4 にぶい黄橙						ナデ?				ナデ?				
216	富崎赤坂遺跡	T4	鉢C			2.30	12.00		密		やや良	7.5YR7/6 橙	7.5YR7/6 橙						ヘラ削り				ハケ				底部に径7.5mmの穿孔有
217	富崎赤坂遺跡		甕or壺底部			4.20	7.00		密	3mm以下	やや不良	7.5YR7/6 橙	10YR7/4 にぶい黄橙						調整不明				調整不明				底部に径6mmの穿孔有亀田氏採集
218	富崎赤坂遺跡	T11	縄文深鉢	22.00	0.45				密		良	10YR6/4 にぶい黄橙	5Y2/1 黒			半隆起線爪形文 半隆起文											新保式
219	離山砦遺跡		甕Aa2	8.00	1.10				密		やや不良	10YR6/6 明黄褐	10YR6/6 明黄褐			ナデ				ナデ				有			亀田氏採集
220	離山砦遺跡	包含層	甕Aa3	20.00	0.8/0.9				密		良	2.5Y2/1 黒	2.5Y3/1 黒褐			ナデ				ナデ				有		口縁部2	
221	離山砦遺跡	包含層	甕Aa3	17.00	1.50				密		やや良	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙			ナデ				ナデ,ハケ							
222	離山砦遺跡		甕Aa5	15.00	1.50				密		やや良	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/5 にぶい黄橙			ナデ				ナデ				有		口縁部4～5	林寺氏採集
223	離山砦遺跡	包含層	甕Ab1	17.00	0.80				密		やや良	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙			ナデ	ハケ			ナデ	ヘラ削り			有			
224	離山砦遺跡		甕Ab1	18.00	1.50				密		やや不良	10YR7/4 にぶい黄橙	7.5YR5/4 にぶい褐			ナデ				ナデ							林寺氏採集
225	離山砦遺跡	包含層	甕Ab2	16.00	0.50				密		やや不良	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙			ナデ	ハケ			ナデ	ハケ			有			
226	離山砦遺跡	包含層	甕Ab2	20.00	1.00				密		不良	7.5YR6/6 橙	7.5YR6/6 橙			ナデ	ハケ			ナデ	ヘラ削り						
227	離山砦遺跡	包含層	甕Ab3	16.00	1.30				密		やや良	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙			ナデ	ハケ→ナデ			ナデ	調整不明						
228	離山砦遺跡	包含層	甕Ab3	17.00	1.00				密		やや不良	10YR7/6 明黄褐	10YR7/6 明黄褐			ナデ				ナデ				有			
229	離山砦遺跡	包含層	甕Ab3	18.60	5.00				密		やや良	7.5YR7/4 にぶい橙	7.5YR7/4 にぶい橙			ナデ	ハケ			ナデ	ハケ			有			
230	離山砦遺跡	SP19	甕Ab3	26.00	1.00				密	3mm以下	不良	7.5YR6/6 橙	10YR5/3 にぶい黄褐			調整不明				ナデ							
231	離山砦遺跡	包含層	甕Ab4	13.00	1.80				密		やや不良	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙			ナデ	ハケ			ハケ→ナデ? ハケ							
232	離山砦遺跡	包含層	甕Ab4	13.80	2.00				密	1mm程度	やや不良	2.5Y7/4 浅黄	10YR7/4 にぶい黄橙			ナデ	ナデ			ナデ	調整不明			有			
233	離山砦遺跡	SP02	甕Ab4	13.40	12.00				密		やや良	7.5YR7/6 橙	7.5YR7/6 橙			ナデ	ハケ			ナデ	ヘラ削り			有			
234	離山砦遺跡	包含層	甕Ab4	15.00	0.8/0.9				密		やや良	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙			ナデ	ハケ			ナデ							
235	離山砦遺跡	包含層	甕Ab4	17.00	1.00				密		やや不良	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙			ナデ	ハケ			ナデ	ハケ?						
236	離山砦遺跡	包含層	甕Ab4	15.00	0.90				密		良	10YR4/2 灰黄褐	5YR5/6 明赤褐			ナデ	ハケ			ナデ	ハケ→ヘラ削り						
237	離山砦遺跡	包含層	甕Ab5	18.00	1.10				密		やや不良	10YR7/4 にぶい黄橙	5Y2/1 黒			ナデ				ナデ	ヘラ削り						口縁部外面に爪痕有
238	離山砦遺跡	包含層	甕B1	12.00	0.80				密		良	2.5Y5/2 暗灰黄	2.5Y6/3 にぶい黄			ナデ ハケ→一部ナデ消し				ハケ→ナデ							
239	離山砦遺跡		甕B2	16.00	1.50				密		やや良	7.5YR5/4 にぶい褐	5YR5/6 明赤褐			調整不明				ナデ							林寺氏採集
240	離山砦遺跡	包含層	甕B2	17.00	1.70				密		やや良	5YR4/4 にぶい赤褐	5YR4/4 にぶい赤褐			ナデorハケ	ハケ			ナデorハケ	調整不明			有			
241	離山砦遺跡	包含層	壺A2	12.50	3.00				密		良	10YR5/2 灰黄褐	10YR5/2 灰黄褐			ナデ				ナデ							

表14　遺物観察表⑥

実測番号	遺跡名	出土地点	形態						色調					赤彩		成形・調整								煤		擬凹線	備考
			器種	口径(cm)	口径遺存(/12)	底径(cm)	底径遺存(/12)	器高	胎土		焼成	外面	内面	外面	内面	外面				内面				外面	内面	凹線条数	
									質	砂粒						口頸部・杯部・受部	胴上部・蓋	胴下部	脚・底部	口頸部・杯部・受部	胴上部・蓋	胴下部	脚・底部				
242	離山砦遺跡	包含層	壺A2	19.00	1.00				密		やや良	7.5YR7/6 橙	5YR5/6 明赤褐			ハケ→ナデ				ナデ,ハケ							
243	離山砦遺跡	包含層	壺A3	13.60	4.00				密		やや良	2.5Y7/3 浅黄	2.5Y6/4 にぶい黄			ハケ→ミガキ ハケ→ナデ	ハケ→ミガキ	ハケ→ミガキ		ハケ→ナデ	ヘラ削り	ヘラ削り					
244	離山砦遺跡	包含層	壺A3	15.60	3.00				密	2mm以下多	不良	7.5YR7/6 橙	7.5YR6/6 橙			調整不明				調整不明							
245	離山砦遺跡	包含層	壺A3or壺Bb1	14.00	0.90				密		やや良	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙			ハケ→ナデ				ハケ→ナデ				有			口縁下半部にキザミ目
246	離山砦遺跡		壺A3or壺Bb2	24.00	0.75				密		良	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙			ミガキ				ミガキ							亀田氏採集
247	離山砦遺跡	包含層	壺Bb2	16.60	3.00				密		やや良	10YR7/6 明黄褐	10YR7/6 明黄褐			ミガキ				ミガキ							
248	離山砦遺跡	包含層	壺Bb3	11.80	1.00				密		やや良	10YR6/4 にぶい黄橙	7.5YR4/4 褐	有	有	ミガキ				ハケ→ミガキ							
249	離山砦遺跡	包含層	壺	16.00	4.20				密		良	10YR5/4 にぶい黄褐	10YR7/4 にぶい黄橙			ミガキ				ハケ→ミガキ				有	有		
250	離山砦遺跡	包含層	壺	15.00	0.90				密		良	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙			ナデ ナデ→ハケ				ナデ							
251	離山砦遺跡	包含層	壺	19.00	0.60				密		やや良	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙			ナデ				ナデ							
252	離山砦遺跡		壺頸部						密		やや良	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙			ナデ	ハケ→ナデ			ハケ→ナデ	調整不明						亀田氏採集
253	離山砦遺跡	包含層	壺D						密		やや不良	10YR7/6 明黄褐	10YR6/4 にぶい黄橙			ミガキ				ミガキ							同心円のスタンプ文
254	離山砦遺跡	SP02	甕or壺底部			4.20	6.00		密		やや不良	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙						ハケ				ヘラ削り	有			
255	離山砦遺跡	SK01	甕or壺底部			3.60	9.00		密		やや良	2.5Y2/1 黒	10YR7/4 にぶい黄橙						ハケ→ヘラ削り				ナデ?				
256	離山砦遺跡	包含層	甕or壺底部			4.00	3.00		密		やや良	10YR5/3 にぶい黄褐	2.5Y5/2 暗灰黄						ハケ→ミガキ				ヘラ削り				
257	離山砦遺跡	包含層	甕or壺底部			6.80	3.80		粗～密		やや良	7.5Y5/6 明褐	7.5YR6/6 橙						ナデ?ヘラ削り?				ヘラ削り?	有			
258	離山砦遺跡	包含層	甕or壺底部			5.00	12.00		密		良	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR5/3 にぶい黄褐						ハケ				ハケ				内面にコゲ
259	離山砦遺跡	包含層	甕or壺底部			5.00	9.00		密		やや良	7.5YR6/6 橙	10YR6/4 にぶい黄橙						ハケ				ハケ→ヘラ削り	有			
260	離山砦遺跡	包含層	甕or壺底部			5.00	4.50		密	3mm以下多量	やや不良	10YR6/4 にぶい黄橙	2.5Y4/1 黄灰						ヘラ削り				ハケ→ヘラ削り				
261	離山砦遺跡	包含層	甕or壺底部			4.50	12.00		密		やや良	10YR6/4 にぶい黄橙	5Y3/1 オリーブ黒						ハケ				ハケ				
262	離山砦遺跡	包含層	甕or壺底部			4.00	12.00		密	3mm以下	やや不良	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR7/4 にぶい黄橙						ヘラ削り				ハケ				内面にコゲ
263	離山砦遺跡		甕or壺底部			5.00	3.00		密		良	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR6/4 にぶい黄橙						ハケ→ヘラ削り				ハケ	有			林寺氏採集
264	離山砦遺跡	包含層	甕or壺底部			6.40	4.00		密		やや不良	10YR6/4 にぶい黄橙	2.5Y6/4 にぶい黄						ハケ→ヘラ削り				ハケ				
265	離山砦遺跡	包含層	甕or壺底部			5.70	12.00		密		良	10YR5/4 にぶい黄褐	10YR5/4 にぶい黄褐						ミガキ				ハケ				
266	離山砦遺跡	包含層	甕or壺底部			6.00	4.50		密		やや不良	2.5Y6/3 にぶい黄	2.5Y5/2 暗灰黄						ハケ→ミガキ				ハケ				
267	離山砦遺跡	包含層	甕or壺底部			5.40	12.00		密	1～2mm	やや不良	7.5YR6/6 橙	7.5YR6/6 橙						ハケ→ミガキ				調整不明				
268	離山砦遺跡	包含層	甕or壺底部			5.30	12.00		密		やや良	10YR7/6 明黄褐	5Y4/1 灰					ハケ→ミガキ	ハケ→ミガキ			ハケ	ハケ				
269	離山砦遺跡		高杯杯部A	16.00	0.20				密		やや良	7.5YR8/6 浅黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙			ミガキ				ミガキ							林寺氏採集
270	離山砦遺跡	SP04	高杯杯部A						密		やや不良	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙			ハケ→ミガキ				ハケ→ミガキ							
271	離山砦遺跡	包含層	高杯杯部A						密		良	10YR6/4 にぶい黄橙	5Y4/1 灰			ミガキ			ミガキ	ミガキ			ミガキ				
272	離山砦遺跡	包含層	高杯杯部A	30.00	1.80				密		やや不良	10YR7/6 明黄褐	10YR7/6 明黄褐			調整不明				調整不明							
273	離山砦遺跡	包含層	高杯杯部A	26.00	0.80				密		やや良	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙			ミガキ				ミガキ							
274	離山砦遺跡	包含層	高杯杯部A	26.00	1.00				密		やや良	2.5Y3/1 黒褐色	2.5Y6/3 にぶい黄			ハケ→ミガキ				ハケ→ミガキ							
275	離山砦遺跡		高杯脚部B						密		やや良	2.5Y6/4 にぶい黄	10YR6/4 にぶい黄橙						ミガキ				ヘラ削り				亀田氏寄贈
276	離山砦遺跡	包含層	脚部B						密		やや不良	7.5YR6/6 橙	7.5YR6/6 橙						ミガキ				ナデ				透孔1箇所残存
277	離山砦遺跡	包含層	高杯脚部C									10YR6/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙						ハケ→ミガキ	ミガキ			ハケ→ナデ				工具痕有透孔3箇所
278	離山砦遺跡	包含層	脚部A			15.00	1.50		密		やや良	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙						ハケ→ミガキ				ナデ				
279	離山砦遺跡	包含層	脚部A			18.00	1.20		密		やや不良	2.5Y6/2 灰黄	2.5Y6/2 灰黄						ミガキ				ハケ				
280	離山砦遺跡	包含層	脚部A			17.00	1.00		密		やや不良	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙						ハケ→ミガキ ナデ				ハケ,ナデ				
281	離山砦遺跡	包含層	脚部A			16.00	1.20		密		やや不良	2.5YR4/6 赤褐	10YR7/4 にぶい黄橙	有					ハケ→ミガキ				ナデ				

表15　遺物観察表⑦

実測番号	遺跡名	出土地点	形態 器種	口径(cm)	口径遺存(/12)	底径(cm)	底径遺存(/12)	器高	色調 胎土 質	砂粒	焼成	外面	内面	赤彩 外面	内面	成形・調整 外面 口頸部・杯部・受部	胴上部・蓋	胴下部	脚・底部	内面 口頸部・杯部・受部	胴上部・蓋	胴下部	脚・底部	煤 外面	内面	擬凹線 凹線条数	備考
282	離山砦遺跡	包含層	蓋B			7.20	1.00	3.70	密		良	2.5Y7/4 浅黄	N3/0 暗灰				ミガキ				ミガキ					4	鈕径1.9cm
283	離山砦遺跡	包含層	蓋B						密		やや不良	7.5YR6/6 橙	7.5YR6/6 橙				調整不明				調整不明						
284	離山砦遺跡	包含層	蓋B						密		やや不良	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙				ハケ				ハケ→ナデ						つまみ部径2.2cm
285	離山砦遺跡	包含層	壺Bb3?	11.00	1.20				密		やや良	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙			ハケ→ナデ				ハケ→ナデ							
286	離山砦遺跡	包含層	坩型土器	13.00	1.10				密		やや良	7.5YR6/6 橙	7.5YR6/6 橙			ナデ				ナデ							内面に指頭圧痕有
287	離山砦遺跡	包含層	坩型土器 or甕Ab5	15.00	2.00				密		やや良	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙			ナデ				ナデ	ハケ						
288	富崎千里 2号墳	T3	高杯杯部A	22.00	2.25				密		やや不良	2.5Y7/3 浅黄	2.5Y7/3 浅黄			ハケ→ミガキ				ミガキ							4号墓周溝内出土
289	富崎千里 2号墳	T3	高杯脚部C			11.00	11.00		密		やや不良	2.5Y7/3 浅黄	2.5Y7/3 浅黄						ヘラ削り→ミガキ				ナデ				4号墓周溝内出土 底縁部内面に指頭圧痕有
290	富崎千里 2号墳	T5	甕or壺底部			8.00	6.00		密		やや良	10YR7/4 にぶい黄橙	2.5Y5/2 暗灰黄					ハケ→ヘラ削り	ハケ?			ナデ?	ナデ?				
291	富崎千里 2号墳	T4	甕or壺底部			8.60	10.00		やや粗		やや不良	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR8/4 浅黄橙						調整不明				調整不明				縄文
292	富崎千里 6号墳	T5	高杯杯部D	18.60	3.00				密		やや良	10R4/6 赤	10R4/6 赤	有	有	ハケ→ミガキ			ミガキ	ハケ→ミガキ			ナデ				
293	富崎千里 6号墳	T1	甕or壺底部			3.50	12.00		密		良	2.5YR5/8 明赤褐	7.5YR7/6 橙	有					ミガキ				ハケ				
294	富崎千里 6号墳	T1	甕or壺底部			8.50	6.40		やや粗	3mm以下 多	不良	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/6 明黄褐						調整不明				調整不明				
295	富崎千里 6号墳	T3	鉢B	26.00	1.50				密		やや良	2.5Y6/4 にぶい黄	10YR7/4 にぶい黄橙			ハケ	ハケ	ハケ		ヘラ削り→ナデ	ヘラ削り→ナデ	ヘラ削り→ナデ					
296	富崎千里 9号墳	T3	壺Bb1						密		やや良	10YR6/6 明黄褐	10YR6/6 明黄褐			ハケ→一部ナデ	ハケ			ハケ→ナデ消し	ハケ→ナデ消し						
297	富崎千里 9号墳	T3	壺Bb1						密	1~3mm程度 多	やや不良	10YR6/6 明黄褐	10YR6/6 明黄褐			ハケ,ナデ				ハケorナデ							
298	富崎千里 9号墳	T4	壺Bb1						密		やや良	2.5YR6/8 橙	7.5YR6/6 橙			ナデ,ハケ				ナデorハケ→ミガキ?							
299	富崎千里 9号墳	T3	?縄文深鉢						やや密	1~2mm程度 多	やや良	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙			ハケ→ミガキ				ナデorヘラ削り							
300	富崎千里 9号墳	T3	縄文						粗	3mm以下 多	やや不良	2.5Y6/3 にぶい黄	2.5Y6/4 にぶい黄														天王山式か？
301	富崎千里 9号墳	T2	小型装飾壺C1						密		やや良	10R4/6 赤	10YR7/6 明黄褐	有				ミガキ				ハケ					突帯部にキザミ目
302	富崎千里 9号墳	T2	小型装飾壺C1	9.00	1.80				密		良	10R4/6 赤	10YR5/4 にぶい黄褐	有	有	ミガキ				ミガキ							
303	富崎千里 9号墳	T9	高杯杯部B						密		やや良	2.5YR4/6 赤褐	2.5YR4/6 赤褐	有	有	ミガキ				ミガキ							
304	富崎千里 9号墳	T9	器台脚部			13.40	7.00		密		やや良	2.5YR4/8 赤褐	10YR6/4 にぶい黄橙	有					ハケ→ミガキ				ハケ→ナデ				透孔4箇所
305	富崎千里 9号墳	T9	蓋C			19.6	2.60		密		やや良	2.5YR4/6 赤褐	2.5YR4/6 赤褐	有	有		ミガキ				ミガキ						
306	富崎千里 9号墳	T6	打製石斧																								最大長：16.6cm最大幅：12.5cm 最大厚：3.2cm石材：凝灰石
307	富崎千里 10号墳	T4	壺口縁部						密		やや良	2.5YR4/6 赤褐	2.5YR4/6 赤褐	有	有	ナデ→ミガキ				ナデ→ミガキ							
308	富崎千里 10号墳	T2	壺F						密		やや良	2.5Y6/3 にぶい黄	2.5Y7/2 灰黄				ハケ→ミガキ	ハケ→ミガキ	ヘラ削り		調整不明	調整不明	調整不明				
309	富崎千里 16号墳	T2	甕Ab6	23.00	1.90				密		やや良	7.5YR6/6 橙	10YR6/4 にぶい黄橙			板ナデorハケ	ハケ,ヘラ削り			板ナデorハケ	ナデ,ヘラ削り						17号墳墳頂出土 内面に指頭圧痕有
310	富崎千里 16号墳	T5	壺頸部						密		良	10R4/6 赤	2.5YR5/6 明赤褐	有	有	ミガキ				ナデ→ミガキ							頸部径4.8cm
311	富崎千里 16号墳	T2	壺F						密		やや不良	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙				調整不明				ナデ						
312	富崎千里 16号墳	T2	壺頸部						密		やや不良	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR7/6 明黄褐			ナデ	ミガキ				調整不明	調整不明				4	
313	富崎千里 16号墳	T4	高杯脚部C						密		やや不良	10YR7/6 明黄褐	10YR7/6 明黄褐	有					ミガキ				調整不明				透孔2つ組で2箇所残存
314	富崎千里 16号墳	T2	器台						密		やや良	10R4/6 赤	10YR6/4 にぶい黄橙	有					ミガキ				ハケ→ナデ				
315	富崎千里 16号墳	T2	器台						密		やや不良	5YR6/8 橙	7.5YR6/8 橙	有					ハケ→ミガキ				ハケ				
316	富崎千里 16号墳	T4	蓋C						密		やや良	10YR7/6 明黄褐					ミガキ										
317	富崎千里 16号墳	T2	蓋C						密		やや良	10R4/6 赤	10R4/6 赤	有	有		ミガキ				ミガキ						
318	富崎千里 18号墳	T1	高杯杯部A	19.60	0.50				密		やや良	10R4/6 赤	10YR6/4 にぶい黄橙	有	有	ハケ→ミガキ				ハケ→ミガキ							
319	富崎千里 18号墳	排土中	縄文深鉢						やや密		やや不良	10YR6/6 明黄褐	10YR6/6 明黄褐														爪形文
320	富崎千里 18号墳	T4	須恵器・杯B	7.90	0.60	5.90	9.00		密		良(還元硬質)	2.5Y6/1 黄灰	2.5Y7/2 灰黄			ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ				底部外面にヘラ記号有
321	富崎千里 18号墳	T4	須恵器・杯B			10.50	2.60		密		良(還元硬質)	2.5Y6/1 黄灰	2.5Y6/2 灰黄					ロクロナデ				ロクロナデ	ロクロナデ				

表16　遺物観察表⑧

実測番号	遺跡名	出土地点	形態						色調					赤彩		成形・調整								煤		擬凹線	備考
									胎土		焼成					外面				内面								
			器種	口径(cm)	口径遺存(/12)	底径(cm)	底径遺存(/12)	器高	質	砂粒		外面	内面	外面	内面	口頸部・杯部・受部	胴上部・蓋	胴下部	脚・底部	口頸部・杯部・受部	胴上部・蓋	胴下部	脚・底部	外面	内面	凹線条数	
322	富崎千里18号墳	T4	須恵器・杯蓋			16.00	0.30		密		良(還元硬質)	2.5Y6/2 灰黄	2.5Y6/2 灰黄				ロクロナデ				ロクロナデ						
323	富崎3号墓	T1N1/4	甕Aa3	21.00	1.30				密	3mm以下	やや良	5YR5/6 明赤褐	10YR6/4 にぶい黄橙			板ナデ→ミガキ	ミガキ			板ナデ→ミガキ	ヘラ削り					4	
324	富崎3号墓	T1	高杯杯部A	34.00	5.60				密		不良	5YR6/6 橙	5YR6/6 橙			ミガキ				ミガキ							
1	千坊山遺跡	T1SI01 X195Y175	甕	15.80	2.00				密		やや不良	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙			ナデ				ナデ						2	
2	千坊山遺跡	x205Y171 表採	甕	15.80	1.20				密	2mm以下	不良	2.5Y4/1 黄灰	10YR7/4 にぶい黄橙			ナデ	ハケ			ナデ						口縁部4	外面は焼成不良により黒っぽい
3	千坊山遺跡	A地区 T30SI11南	甕	14.00	1.00				密		良	2.5Y3/2 黒褐	2.5Y8/3 淡黄			ナデ				ナデ						6	
4	千坊山遺跡	B地区 T92SI19	甕	13.00	1.00				密	3mm程度	良	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙			ナデ	ハケ			ナデ	ハケ→ヘラ削り→指ナデ						
5	千坊山遺跡	A地区	甕	13.90	0.50				密		良	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙			ナデ				ナデ							本田氏寄贈
6	千坊山遺跡	SI06覆土	甕	17.80	1.70				密		良	10YR7/4 にぶい黄橙	2.5Y4/2 暗灰黄			ナデ				ナデ				有	有		
7	千坊山遺跡	A地区	甕	17.80	4.70				密		良	10YR4/2 灰黄褐	7.5YR5/3 にぶい褐			ハケ→ナデ	ハケ	ハケ		ハケ→ナデ	ハケ→ヘラ削り	ヘラ削り		有	有		本田氏寄贈 内面にコゲ
8	千坊山遺跡	A地区 SI03	甕	16.40	2.80				密		良	7.5YR7/4 にぶい橙	7.5YR7/4 にぶい橙			ナデ	ハケ			ナデ	ハケ						
9	千坊山遺跡	B地区 T92SI19	甕	13.00	2.50				密		良	2.5Y8/3 淡黄	2.5Y8/3 淡黄			ナデ				ナデ							
10	千坊山遺跡	A地区 T32ASK03	甕	31.80	1.00				密		良	10YR4/2 灰黄褐	10YR4/2 灰黄褐							ナデ						7	
11	千坊山遺跡	A地区 SI02	壺	20.50	9.00				密		良	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙			ナデ→ミガキ ハケ→ミガキ	ハケ→ミガキ			ナデ ハケ→ミガキ	ナデ						
12	千坊山遺跡	B地区 T92SI19	壺	15.00	1.40				密		良	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/5 にぶい黄橙			ミガキ ハケ→ミガキ				ハケ→ミガキ							内面に指頭圧痕有
13	千坊山遺跡	T30SI11南	壺	15.50	12.00				密		良	2.5YR5/6 明赤褐	2.5YR5/6 明赤褐	有	有	ハケ→ミガキ				ハケ→ミガキ ハケ	ハケ						外面に指頭圧痕有
14	千坊山遺跡	SI04覆土	壺	10.00	12.00				密		やや良	10R4/6 赤	5YR6/8 橙	有	有	ハケ→ミガキ	ハケ→ミガキ	ハケ→ミガキ	ハケ→ミガキ	ハケ→ミガキ	ヘラ削り	ハケ→ヘラ削り	ハケ			4	
15	千坊山遺跡	T30SI11南	壺	8.60	10.00	5.00	12.00	11.50	密		良	7.5YR7/6 橙	10YR7/4 にぶい黄橙	有	有	ナデ→ミガキ ハケ→ミガキ	ハケ→ミガキ	ハケ→ミガキ	ハケ→ミガキ	ナデ→ミガキ	ハケ	ハケ	ヘラ削り				
16	千坊山遺跡	A地区 T30排土SI04覆土	壺	7.00	3.00				密		良	2.5YR4/6 赤褐	10YR6/4 にぶい黄橙	有	上部	ハケ→ミガキ				ハケ→ミガキ ハケ ヘラ削り							
17	千坊山遺跡	SI04覆土	甕			4.00	12.00		密		良	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙				板ナデ?	板ナデ?	板ナデ?		ナデ	ナデ	ナデ				内面に指頭圧痕有
18	千坊山遺跡	T30SI11	高杯	23.00	10.40	11.25	4.90	14.80	密		良	5YR7/6 橙	5YR7/6 橙			ナデ→ミガキ ミガキ ミガキ→指ナデ?			ナデ→ミガキ ミガキ	ハケ→ミガキ			板ナデ				
19	千坊山遺跡	T30SI11南	器台	9.30	12.00	8.45	12.00	9.35	密		良	10R4/6 赤	10YR7/4 にぶい黄橙	有	有	ミガキ			ミガキ	ミガキ			ナデ→ヘラ削り ナデ→ミガキ			3	透孔2つ組で3箇所
20	千坊山遺跡	T30SI11南	器台	15.00	12.00	12.00	3.90		密		良	5YR5/6 明赤褐	5YR5/6 明赤褐			ミガキ			ミガキ	ハケ→ミガキ			ヘラ削り ハケ→ミガキ				
21	千坊山遺跡	A地区 T117SI25覆土	高杯脚部						密		やや不良	10YR8/4 浅黄橙	10YR8/4 浅黄橙			ミガキ			ミガキ,ハケ	ミガキ							
22	千坊山遺跡	T30SI11南	高杯杯部	17.00	0.90				密		良	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙			ナデ→ミガキ ミガキ ハケ→ミガキ				ハケ→ミガキ							
23	千坊山遺跡	T117SI25	高杯杯部	27.10	2.70				密		良	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙			ミガキ				ミガキ							
24	千坊山遺跡	A地区 T41SI15	器台受部	27.80	4.90				密		やや不良	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙			ナデ				ナデ?						外面	
25	千坊山遺跡	A地区 SI03覆土	器台受部	23.80	1.20				密		良	10YR7/5 にぶい黄橙	10YR8/3 浅黄橙			ミガキ?				ナデ?						5	
26	千坊山遺跡	T32B表採 SI06	器台受部	21.00	1.40				密		良	10YR8/4 浅黄橙	10YR8/4 浅黄橙			ハケ→ミガキ				ハケ→ミガキ							
27	千坊山遺跡	A地区 T41SI15覆土	器台受部	19.60	2.60				密		良	2.5Y7/4 浅黄	10YR7/4 にぶい黄橙			ミガキ				ミガキ						2	
28	千坊山遺跡	A地区 SX01覆土	蓋			6.4	2.40	3.60	密		良	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙				ハケ→ミガキ				ミガキ			有	有		
29	千坊山遺跡	B地区 T92SI19	蓋						密		良	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/6 明黄褐				ガキ				ミガキ						
30	千坊山遺跡	A地区	蓋	10.80	9.10			5.10	密		良	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙				ハケ→ミガキ				ミガキ						本田氏寄贈
31	千坊山遺跡	A地区 T35SX02	蓋						密		良	10YR8/6 黄橙	10YR8/6 黄橙				ナデ→ミガキ				ミガキ						
32	千坊山遺跡	A地区 SI08	鉢	15.70	2.90				密		良	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙			ハケ→ナデ	ハケ→ナデ			ハケ→ナデ	ハケ→ナデ						
33	千坊山遺跡	T63	有孔鉢			1.60	12.00		密		良	2.5Y8/3 淡黄	10YR7/4 にぶい黄橙					ヘラ削り	ナデ				ヘラ削り				
34	千坊山遺跡	SI06覆土	台付壺か台付鉢			6	12.00		密		良	10YR4/2 灰黄褐	10YR4/2 灰黄褐					ナデ→ミガキ	ミガキ				ミガキ				
35	千坊山遺跡	T1排土中	鉢	10.80	4.00				密		良	7.5YR7/4 にぶい橙	7.5YR7/4 にぶい橙			ヘラ削り,ナデ	ヘラ削り,ナデ			ナデ	ナデ						
36	千坊山遺跡	T112西側黒色土	鉢	11.80	1.50				密		良	10YR6/4 にぶい黄橙	7.5YR7/4 にぶい橙			ヘラ削り				ハケ							
37	千坊山遺跡	SI01	匙						密		良	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	有		ハケ→ミガキ				ハケ→ミガキ?							

表17　遺物観察表⑨

附章１　富崎千里古墳群における地中レーダ探査

富山大学大学院　人文科学研究科修士生　岸田　徹
富山大学理学部助教授　酒井英男

１．はじめに

今回、我々は、富崎千里古墳群内の６号墳と９号墳において探査を行った。探査の目的は、その主体部の確認、そして６号墳においては、その周溝の形態を確認すること、９号墳ではその墳丘構造の把握であった。

今回用いた地中レーダ探査は、電磁波を地中に送り込みその反射の様子を捉えることにより地下を調査する方法である。これは誘電率の差異を対象とするものであり、土層構造から遺構、遺物の探査まで幅広く応用できる探査法である。

２．探査の概要

今回の探査に使用した装置は富山大学理学部所有のカナダ Sensor & Software 社製 pulse EKKO1000 と同社 pulse EKKO Ⅳ であり、使用したアンテナの周波数は225MHzと200MHzである。また、天理大学考古学研究室よりアメリカ G.S.S.I.社製 Sir-2 を借用し、探査を行った。こちらのアンテナ周波数は400MHzである。探査は平成12年11月と平成13年１月、２月に実施したが降雪のため散発的に行わなければならなかった。

６号墳での測線設定は図１のとおりである。pulse EKKO 機による16本の測線を設定した。使用アンテナは主に225MHzであるが、測線01～05では200MHzも併用した。測点間隔は0.1ｍである。また墳丘上に東西南北6.5×9.5ｍの探査グリッドを設定した。ここでは Sir-2 機を使用、400MHzのアンテナを使用した。

９号墳では pulse EKKO 機は９本の測線を設定した(図２)が、後に主軸に沿って１本追加した。また後方部墳頂に Sir-2 機用に測線間隔0.5ｍで11.0×8.0ｍの探査グリッドを設定した。すべての測線は任意の基準となる点から設定している。

探査深度を求めるため pulse EKKO Ⅳ 機および200MHzのアンテナを使用し地中の電磁波の伝播速度を測定する CMP 探査を実施した(Annan and Cosway, 1992)。その結果６号墳周囲の土壌における電磁波の伝播速度は0.060m/ns、９号墳後方部では0.035m/nsと推定できた。本探査ではこれらを利用して探査深度を設定した。なおここで求めた速度は、200MHzの電磁波の地中伝播速度であり Sir-2 機による400MHzアンテナでの探査結果には当てはまらないことを記しておく。

３．地中レーダ探査の結果と考察

〈６号墳周溝〉

図３－１に測線02の探査結果を示す。探査始点より約2.5ｍ地点から８ｍ地点に幅広で溝状に落ち窪んだ構造が認められる。最深部の深さは地表より約1.7ｍである。これは試掘トレンチにおいて確認された周溝の特徴とよく合致している。なお、4.8ｍ～6.4ｍの溝底における碗を伏せたような強い異常応答は土層構造を捉えているとは考えにくく、例えば大きな礫が溜まっているような状態を捉えていると推定される。古墳西側斜面には比較的大きな礫が所々見られたが、これが転落し溜まったものであろうか。６号墳西側・南側の測線04および05でも同じような溝と思われる構造を確認した。測線04では1.0ｍ地点より右下がりの構造が見られる。墳丘側の立ち上がりは不明であるが5.0ｍ地点あたりかと考えられる。測線05では2.5ｍから6.8ｍ（6.0ｍ？）に溝状の構造が見られる。以下測線13、16、19でも溝状の構造を確認した。しかし測線19ではやや不鮮明であった。これらのことから、東側・北側ではかなり溝が浅くなっており、幅も狭くなっているという探査結果が得られた。

〈９号墳盛土構造〉

図４－１に測線02の結果を示す。これを見ると約8.0ｍ地点よりほぼ水平に走る土層の境界が見られる。この層は

0.0mから3.0mあたりにかけて見られる地山の土層構造と平行に走っており人為的改変(盛土)が加えられていない旧表土のラインであると解釈した。それより上部が盛土とすると、その厚さは後方部墳頂で約1.4mとなる。前方部側には盛土の構造は見られないことからレーダ探査の結果から言えば、地山を削りだして成型したのではないかと考えられる。また盛土中にも何らかの境界が見て取れるが、これは盛土の中でも土質が大きく異なる境界を捉えたものであろう。図4-2は測線02に直交する測線05の探査結果である。ここでも盛土の厚さは約1.4mとなり測線02の結果と整合している。

〈6号墳墳頂〉

墳丘上では6.5×9.5mの探査グリッドを設定し、南北、東西方向にそれぞれ0.5m間隔で計34本の測線を設定した。それぞれのProfile図より一定時間内における応答の様子を取り出し平面図化したのがSlice平面図と呼ばれるものであり、図5-1にその一部を示した。探査範囲内に散発的に強い応答が見られ、地表近く0～10nsまではトレンチの影響が強く見られた。またここで注目されるのはSlice平面図の35nsから（地表下約60cm～）探査区北西に見られるやや強い応答である。同じ箇所に連続して現れることから何らかの遺構、遺物の可能性が高いと思われる。

〈9号墳後方部墳頂〉

後方部上には11.0×8.0mの探査グリッドを設定し南北、東西方向に0.5m間隔で計40本の測線を設定した。図5-2がそのSlice平面図である。ここでも0から10nsまでの深度ではトレンチの影響が強くでていた。深度が深くなるにつれて散発的に反応が現れるが、ここで注目したのは35-50nsのSlice図である。図5-2に応答の強さの等高線図を示した。これを見ると北西－南東方向にのびた異常応答がみられる(図中破線で示す)。これは主体部を捉えている可能性も考えられる。

4．まとめ

6号墳の周溝の様子についてはレーダ探査によって把握することが可能であった。南西側から西側に幅広でやや深い溝が認められるものの、他の部分は不鮮明であり、浅く小さな周溝がめぐるに過ぎないのであろう。今回は測線数、使用したアンテナが限られており、全体的な周溝の様子を復元するのは困難であるが、今後測線を増やし、浅くなる部分ではアンテナ周波数をかえるなどの方法を取れば十分可能であると考える。墳丘上の探査はいくつかまとまった強い応答を確認し、何らかの遺構、遺物が存在する可能性の高い個所を指摘できた。

9号墳の構造探査では盛土の厚さ、またその構造を推定することが可能であった。また後方部墳頂における探査でも6号墳と同じく中央部に主体部かと思われる異常応答地点を確認できた。

あくまで探査結果自体は理化学的な反応を捉えているに過ぎないため、その解釈には慎重さが必要であり、断定することはとても困難である。今回の探査で得られた結果が何を捉えていたのか、今後の発掘成果を期待したい。

謝　辞

今回の探査を行うにあたり、婦中町教育委員会、ならびに富山県埋蔵文化財センター岸本雅敏氏、天理大学置田雅昭先生をはじめ多くの方々のご指導、ご協力をいただきました。末筆ながらここに深く感謝申し上げます。

参考文献

Annan, A. P. and Cosway, S. W. 1992: Ground penetrating radar survey design, Annual Meeting of SAGEEP, 1-12

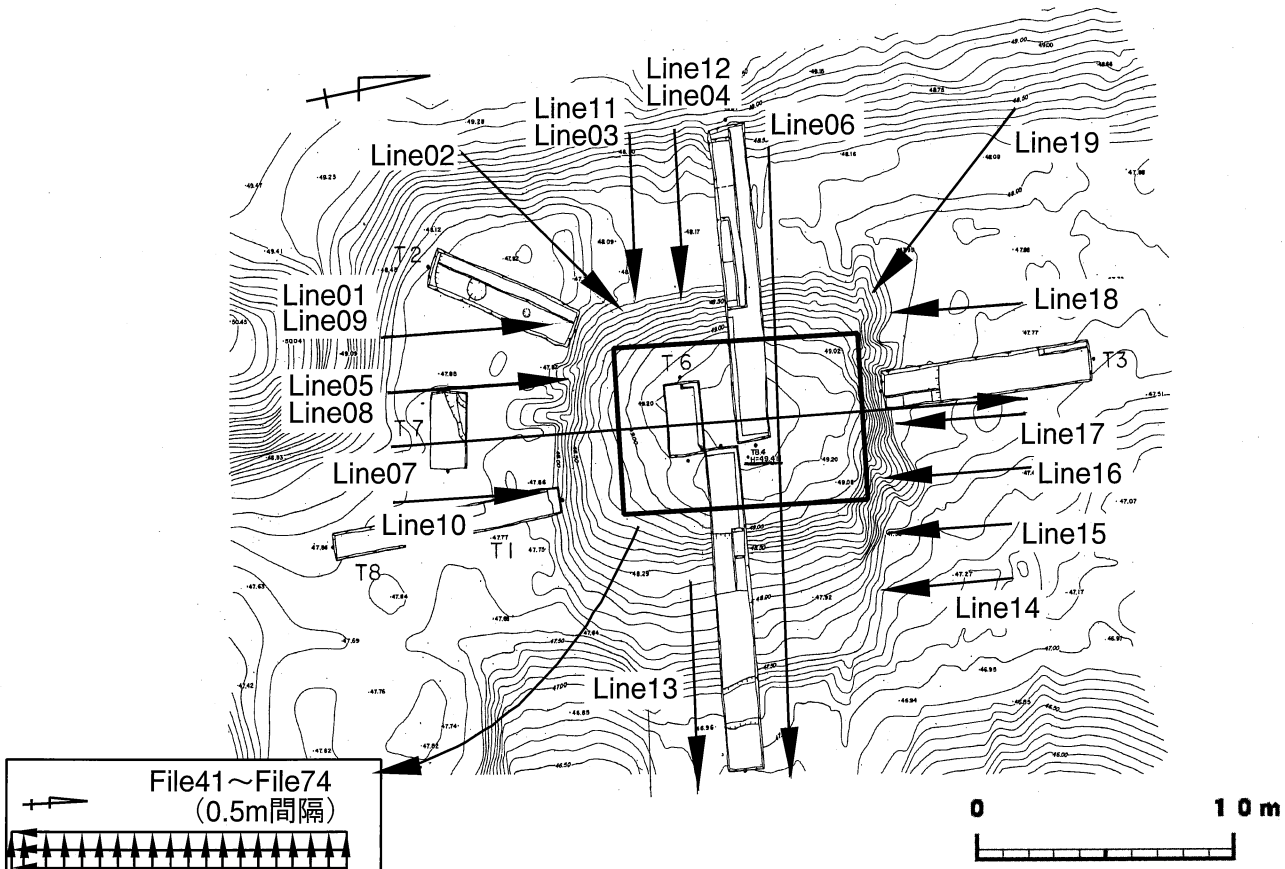


図1　富崎千里6号墳　測線配置図

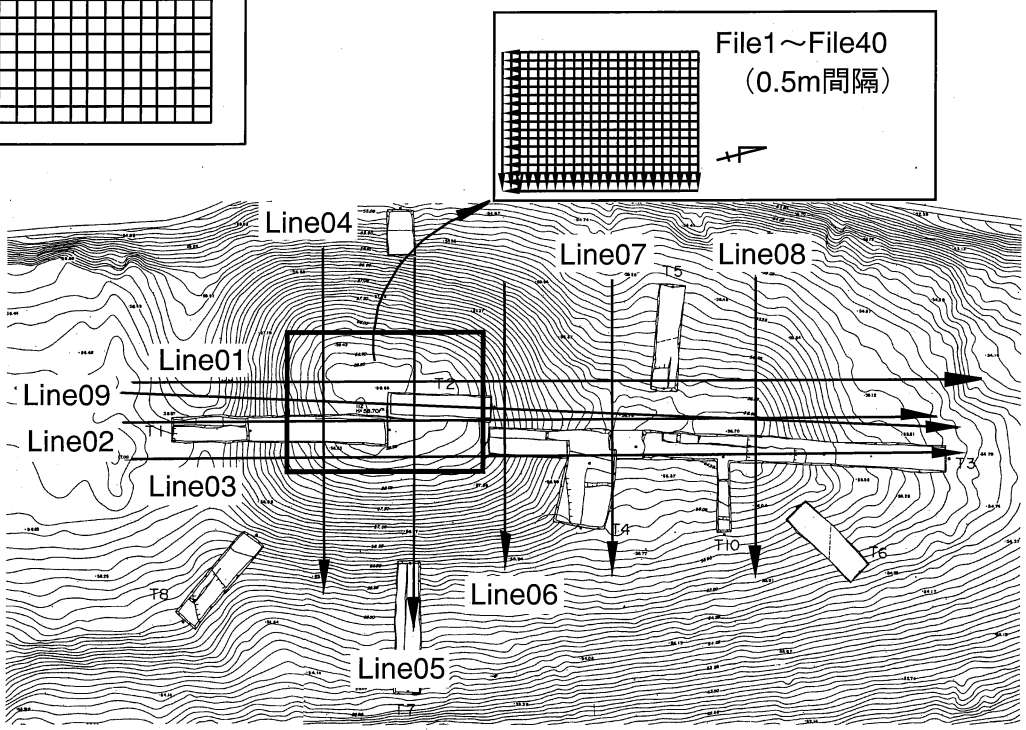


図2　富崎千里9号墳　測線配置図

0　10m

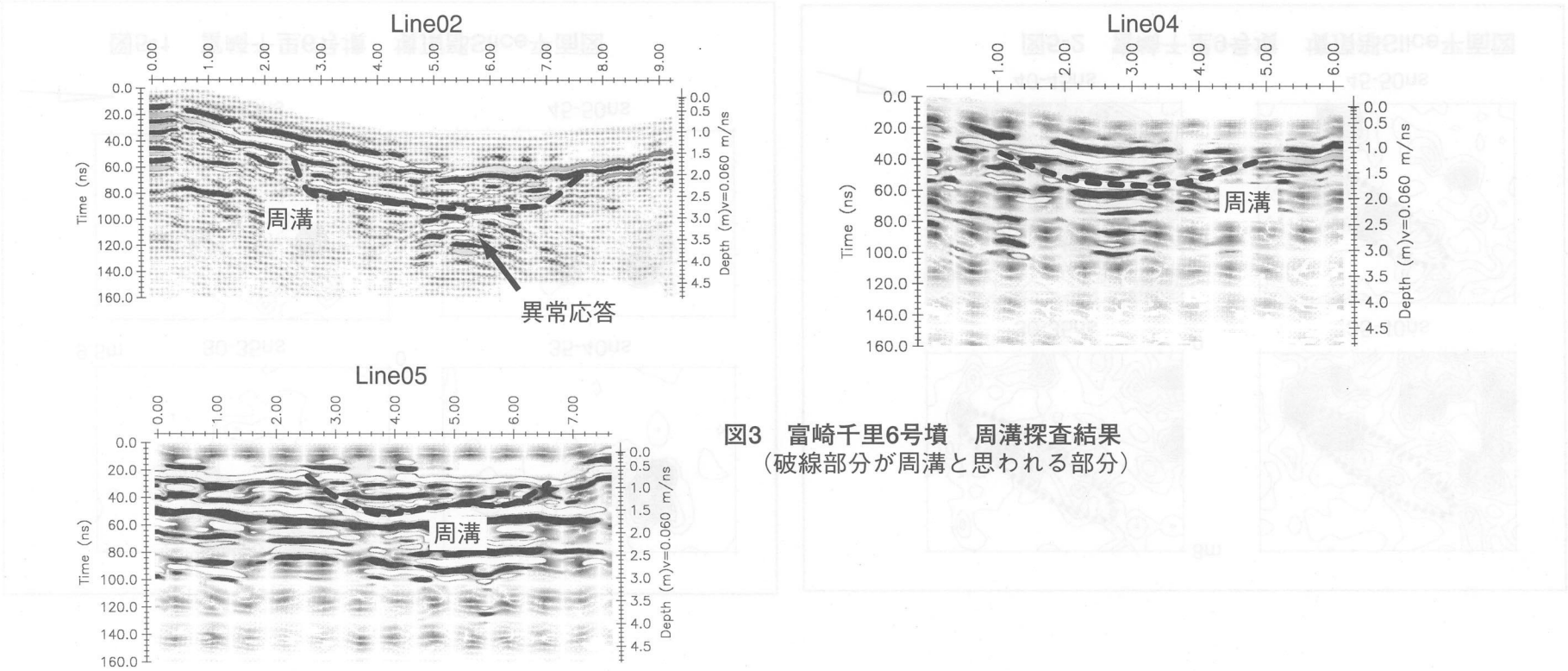


図3　富崎千里6号墳　周溝探査結果
（破線部分が周溝と思われる部分）

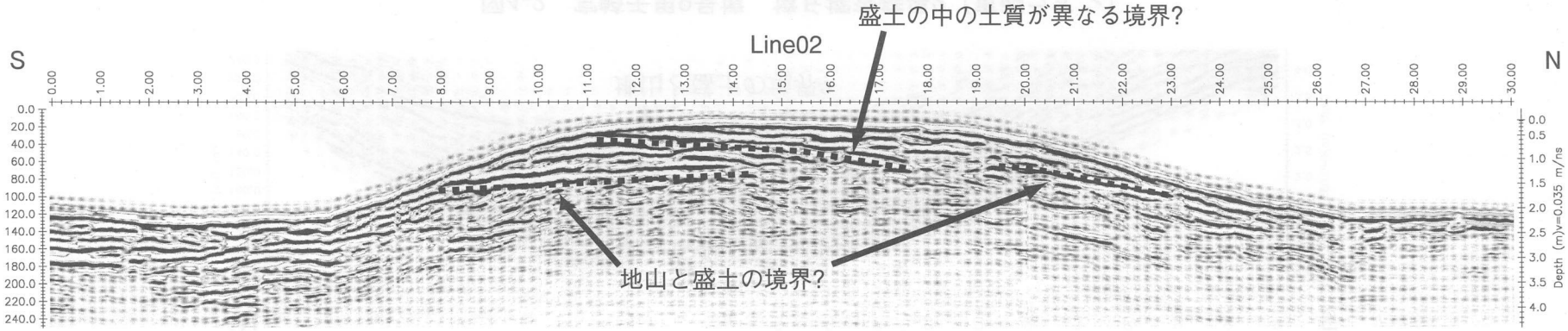


図4-1　富崎千里9号墳　墳丘探査結果1　（南北ライン）

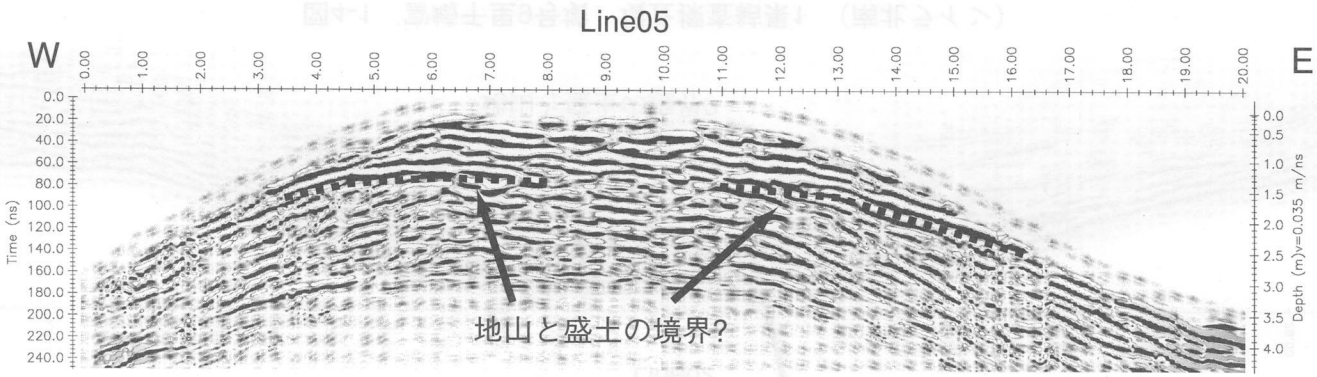


図4-2　富崎千里9号墳　墳丘探査結果2（東西ライン）

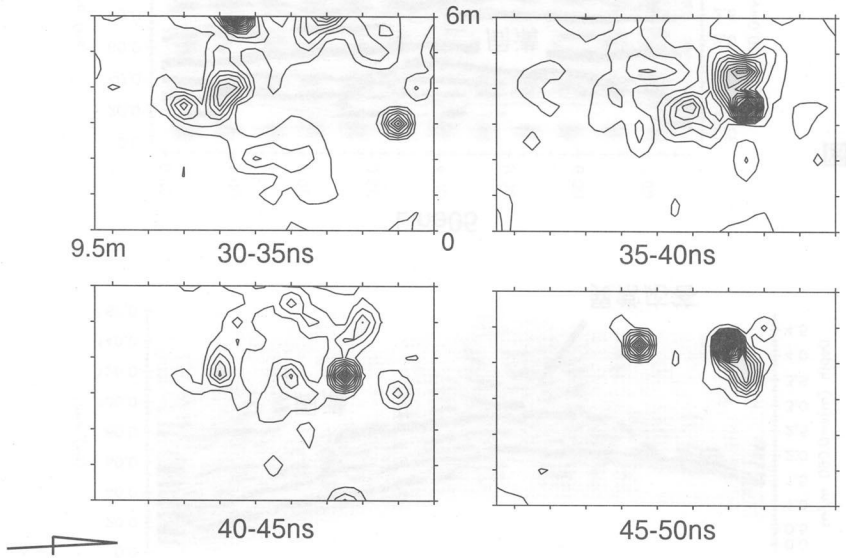


図5-1　富崎千里6号墳　墳頂部Slice平面図

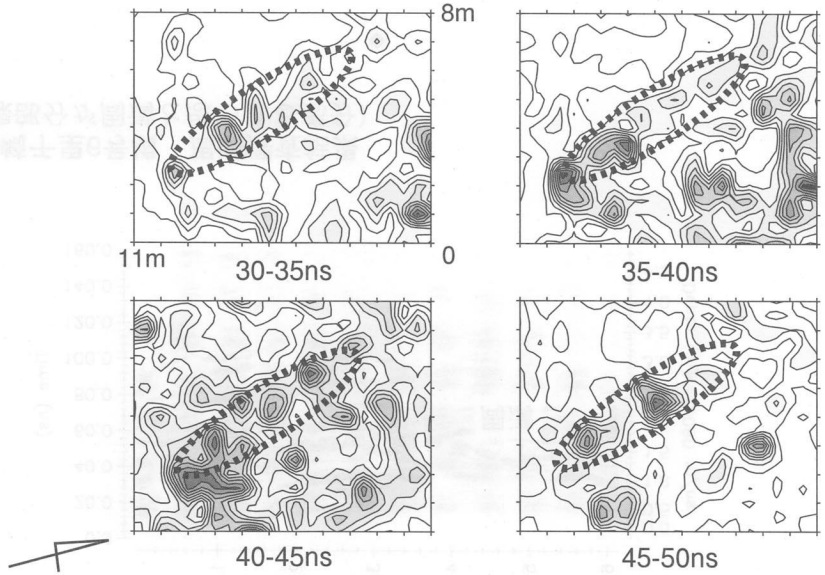


図5-2　富崎千里9号墳　墳頂部Slice平面図

附章２　ミニシンポジウム『卑弥呼の時代を生きた人々』概要

平成13年９月22日18:30より、これまで実施してきた千坊山遺跡群の調査結果を広く一般に公開する為、シンポジウムを開催した。基調報告ではOHPを交え調査概要を報告した。パネルディスカッションでは当時交流のあった他地域の状況の報告をまじえ、千坊山遺跡群の評価についての見解を発表した。ここではその一部を紹介する。

司　会　者　荒木　良一 氏（北日本新聞社）

パネリスト　久々　忠義 氏（小矢部市教育委員会）

（五十音順）　高橋　浩二 氏（富山大学考古学研究室）

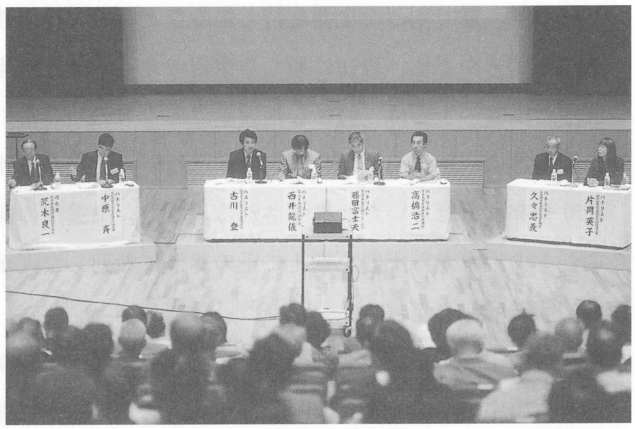
中原　　斉 氏（鳥取県教育委員会）

西井　龍儀 氏（富山考古学会）

藤田富士夫 氏（富山市埋蔵文化財センター）

古川　　登 氏（福井県清水町教育委員会）

片岡　英子　（婦中町教育委員会）



《内　容》

久々　忠義 氏

①千坊山遺跡は北陸でも有数の弥生集落である。24棟の竪穴住居は、２世紀末から３世紀の中頃までの約80年間営まれた。３家族が３世代にわたって暮らし、一時期には８棟程度（少なくとも約50人）があったと推定する。周囲の段丘上には墳丘墓が３基あり、家族ごとの墓と考えられる。

②六治古塚（四隅突出型墳丘墓）の形態は福井県に近く、山陰の墓制をもつ先祖が越の国の中枢である福井平野で開拓し、子孫が東への領域拡大の為日本海を北上し神通川・井田川を経て、この地にたどり着いたのではないか。先祖の土地との繋がりを持ち、鉄器の鉄は山陰の親戚から手に入れて、開発を大規模に進めたのだろう。人々は月影式の土器を使用し、赤彩した台付細首壺や装飾壺を使った独特の祀りを生み出している。人々の出身地は、墓の形から山陰（四隅突出型）、東海（前方後方形）、近畿（前方後円形）、瀬戸内（円形）の西日本各地である可能性がある。

③千坊山遺跡群の開拓開始から80～100年たった頃、60ｍを超える王塚・勅使塚古墳が千坊山集落のすぐ山の上にできる。これらは３世紀末、千坊山集団のなかから婦負の国を領域とする王が誕生したことを示す。この時期、神通川、井田川、山田川、熊野川の上流には50余りの遺跡があり、15～16位の集団がいたと考えられるが、王塚・勅使塚レベルの古墳はなく、当時婦負郡に中心勢力がありこれらの地も婦負の国の領域だったと考えたい。

高橋　浩二 氏

①「魏志倭人伝」にある倭国大乱後、戦いを通じて各地が統合される。婦中町には四隅突出型墳丘墓等の巨大墓があるが、このような文化は地域の統合が早く進んだ地域では早く現れ、そうでない地域では遅れる。婦中町には早い時期に巨大墓が出現しているので、地域の統合が早く順調に進んだのではないか。

②六治古塚が造られた時期には、北陸各地で特定個人の為の墓が形成され始める時期にあたっており、千坊山遺跡群に造られた四隅突出型墳丘墓は周辺をまとめるようなリーダーの墓といえる。古墳時代初期には県内を二分するような地域性が形成されるが、そのうち今の婦負郡を中心とする地域を治めていたのがこの地の首長であると推定できる。統治範囲には、神通川流域一帯も入るかもしれない。

中原　斉 氏

①山陰地方の全体像が分かる遺跡には日本最大級(170ha)の遺跡である鳥取県の妻木晩田遺跡がある。本遺跡は標高90～150ｍの山の上にある１～３世紀を中心とした弥生時代後期の集落で、７地区から構成される。仙谷地区、洞ノ原地区、松尾頭地区からは34基の弥生墳丘墓が、妻木新山地区、妻木山地区、小真石清水地区、松尾城地区からは約350程の竪穴住居跡、倉庫跡が見つかっている。これらの地区はそれぞれ異なる役割を担い集合することで１つの大きなムラを構成していたと考えられる。また、墳丘墓と440ｍ程離れた居住域で、同一個体の土器片が出土しており、墓で割った土器を持ち帰るなどしたの可能性も考えられる。この事から、住居群と墓は常にセットであることが分かる他、現在に通じる慣習があったとも考え得る。

②北陸と山陰の土器は、微妙な地域差はあるものの非常に似ており、地域間の交流を物語っている。

③山陰地方の四隅突出型墳丘墓には、貼石がある点が北陸と違う。踏み石状の突出部を通路にして墳丘に出入りし、祀りや葬儀をしていたと推測される。また、出雲市の四隅突出型墳丘墓からは吉備や北陸の土器が出土しており、これらの地方から土器を携えて王の葬儀に参列した人がいたのではないかと考えられている。

西井　龍儀 氏

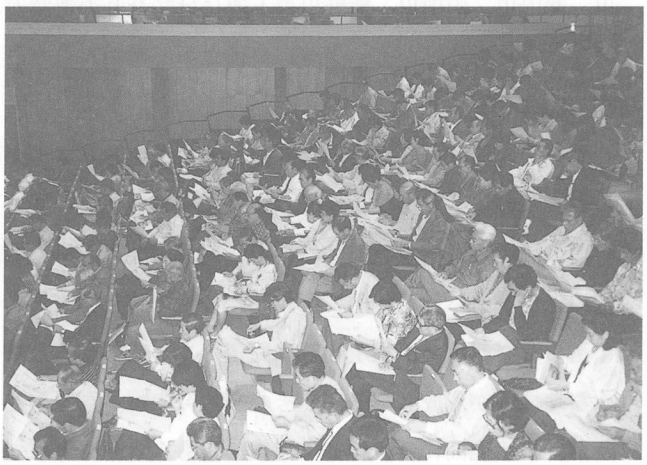
①墳墓・古墳の規模を比較する実験的方法として、1/500,000の地図に全長を２乗して0.01を掛けた数を直径とした円を古墳中心に描くと、支配した地域、関連地域が視覚的に表現できる。全長が20ｍ程度の弥生墳墓では直径４㎞、全長50ｍでは25㎞、日本海側最大の氷見市柳田布尾山古墳のような全長100ｍを超えるものになると100㎞を超える範囲が影響範囲となる。この方法で考えると、全長66ｍの勅使塚古墳は婦中町から富山湾までの範囲で井田川、神通川流域を包括する。越中では、西は柳田布尾山古墳、東は王塚・勅使塚古墳が勢力を２分していた。

②越中では西部に前方後円墳、東部には前方後方墳が多いという報告がされているが、能登半島ではその時期に前方後方墳と前方後円墳が造られている。また、４世紀の終わり頃には加賀で北陸最大級の前方後円墳が造られている。

③墳墓・古墳は、婦中町の婦負郡、氷見市を含めた射水郡、小矢部市周辺の砺波郡、まだ希薄だが確認されていない古墳があると考えられる上市町、舟橋村を中心とする新川郡の４つの大きなグループにまとまる。中でも婦負郡には早い段階から非常に大きなものがまとまって造られている。

古川　登 氏

①北陸の四隅突出型墳丘墓としては、福井で確実なものが７基（小羽山６基、高柳２号墓）、不確実なものが４基（小羽山４基、片山鳥越３基）が、石川で確実なものが１基（一塚21号墓）、不確実なものが１基（一塚38号墓）が確認されている。北陸で最古のものは福井の小羽山30号墓で、法仏式期の築造である。本墓では、埋葬施設上に大量の土器が出土した他、棺内には朱が撒かれ、玉類や短剣など他地域との交流を指し示す副葬品が出土した。小羽山墳墓群の四隅突出型墳丘墓は、山全体を削り出し盛土して整形し、突出部は“しゃもじ”型を呈する。一方、婦中町の四隅突出型墳丘墓は“おたま”型であり、類似している。北陸の四隅突出型墳丘墓は、その形態の共性から“北陸型四隅突出型墳丘墓”ともいえる。

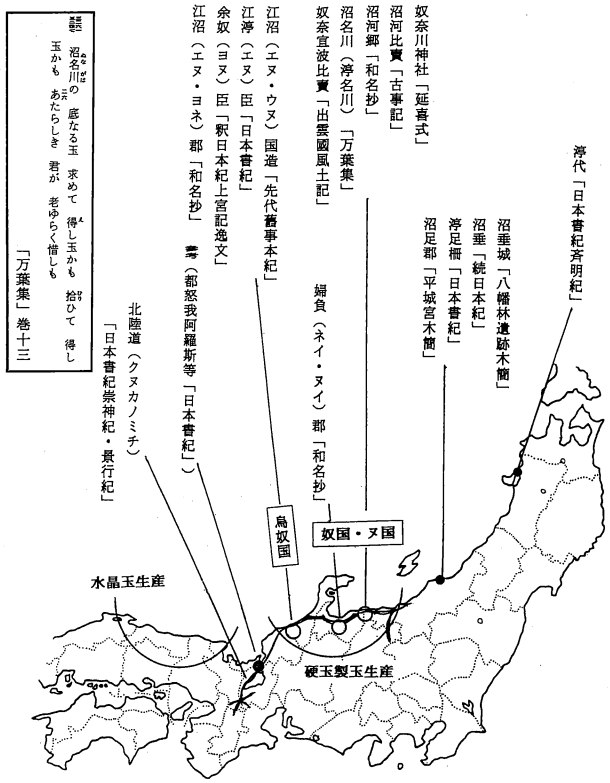


②現在調査中の一辺約15ｍを測る方形墓の棺内から出土した副葬品の状況から、富山県ではまだ四隅突出型墳丘墓が築造されている頃、福井では既に古墳時代に連続するような墓が出現していることが分かってきた。これについては後日正式に発表したい。

藤田　富士夫 氏

①漢の時代に出てきた来世観であり、新しい王墓思想である霊魂と肉体の分離思想を採り入れた、魂が昇天する為の装置として視覚的に編み出されたのが、外界と遮断した周溝の成立である。これは、北陸と東海、畿内大和という３つの地域と理念を同じくするものである。婦中町の四隅突出型墳丘墓の在り方は、古墳文化の先進思想を先駆けて採用したことを示している。

②『魏志倭人伝』に記された邪馬台国連合に属する28の国々の最後に“烏奴国”“奴国”が出てくる。烏奴国については、石川県と福井県の境界辺りにある江沼郡は、『先代舊事本紀』で“ウヌクニ”と読む。敦賀は、元は“ツヌガノクニ”と読み、『日本書紀』によると北陸道は“クヌカノミチ”とされる。すなわち“奴(ヌ)”は、富山県と石川県から西方の国々に付いていると考えられる。一方、婦中町周辺には婦負王国があったと考えるが、婦負(ネイ)は、“ヌイ”という古訓がある(『和名類聚抄』より)。邪馬台国は、北陸から山陰までの地域を“連合”の中に取り込んでいる国家で、それを構成していたクニの１つとして、特有な精神思想を持ったヌイ国があったと考える。



「烏奴国」と「奴国」の想定地(試案)

（「魏志倭人伝」）

「女王国自以北は、其戸数・道里略載得べきも、其余の旁国は遠絶にして詳を得べからず。」

「（二十　国名）次に奴国有り。此れ女王の境界の尽くる所なり。その南に狗奴国有り。」

北　水行十日 陸行一月	（旁国遠絶） 邪馬台国連合		境界	境界の南
「郡従り倭に至」 までの国々 （対馬国～投馬国）	女王国	①斯馬国→巳百支国→伊邪国→都支国→弥奴国		狗奴国
		②好古都国→不呼国→姐奴国		
		③　対蘇国→蘇奴国		
		④　呼邑国→華奴蘇奴国	（サナ国連合）	
		⑤鬼国→為吾国→鬼奴国		
		⑥邪馬国→射臣国→巴利国→支惟国→烏奴国　→	奴国	
				奴国世界

『魏志倭人伝』の「旁国」と位置関係(試案)

藤田富士夫氏発表資料より抜粋

その他の二十一国と狗奴国

自女王國以北、其戸數道里可得略載、其餘旁國遠絶、不可得詳。次有斯馬國、次有巳百支國、次有伊邪國、次有都支國、次有彌奴國、次有好古都國、次有不呼國、次有姐奴國、次有對蘇國、次有蘇奴國、次有呼邑國、次有華奴蘇奴國、次有鬼國、次有爲吾國、次有鬼奴國、次有邪馬國、次有躬臣國、次有巴利國、次有支惟國、次有烏奴國、次有奴國。此女王境界所盡。

其南有狗奴國。男子爲王、其官有狗古智卑狗。不屬女王。

自郡至女王國、萬二千餘里。

女王国より北の国々については、その戸数や行程をほぼ記載できるのであるが、その他のさきの国々は遠く離れているため、詳細を知ることができない。それらの国々は、女王国の次に斯馬国があり、その次に巳百支国があり、その次に伊邪国があり、その次に都支国があり、その次に弥奴国があり、その次に好古都国があり、その次に不呼国があり、その次に姐奴国があり、その次に対蘇国があり、その次に蘇奴国があり、その次に呼邑国があり、その次に華奴蘇奴国があり、その次に鬼国があり、その次に為吾国があり、その次に鬼奴国があり、その次に邪馬国があり、その次に躬臣国があり、その次に巴利国があり、その次に支惟国があり、その次に烏奴国があり、その次に奴国がある。ここが女王の領域の尽きるところである。

その南には狗奴国がある。男子が王となっており、その長官には狗古智卑狗がある。その国は女王に服属していない。

帯方郡から女王国までは、一万二千余里である。

卑弥呼の死と台与

卑彌呼以死、大作冢、徑百餘歩、狗葬者奴婢百餘人。更立男王、國中不服、更相誅殺、當時殺千餘人。復立卑彌呼宗女臺與年十三爲王、國中遂定。

政等以檄告喻臺與。臺與遣倭大夫率善中郎將掖邪狗等二十人、送政等還、因詣臺、獻上男女生口三十人、貫白珠五千孔・青大句珠二枚・異文雜錦二十匹。

（投馬）臺與　底本は「壹與」に作るが、宋本「太平御覧」所引の「魏志」や「梁書」「北史」に従う。

卑弥呼が死ぬと、大々的に冢がつくられた。その直径は百余歩（一歩は六尺、約一・四五メートル）で、殉葬されたのは奴婢百余人であった。あらたに男王が立ったが、国内が服従せず、殺し合いが続いて、そのとき千余人が殺害された。そこでまた卑弥呼の宗族の娘である十三歳の台与が立てられて王となったところ、国内が安定した。

張政らは後に台与に教え喩した。台与は、倭の大夫で率善中郎将の掖邪狗ら二十人を派遣して、張政らの帰還を送らせ、その機会に朝廷に参上して、男女の生口三十人を献上し、白珠五千孔・青大句珠二枚・異文雑錦二十匹を貢納した。

杉本憲司・森博達「魏志倭人伝を通読する」
『日本の古代1　倭人の登場』中央公論社　一九八五年より

「魏志倭人伝」(部分)

1. 周辺の空中写真（向野塚より南を望む）

2. 周辺の空中写真（六治古塚より北を望む）

図版１　空中写真

1. 六治古塚
全景
（北東から）

2. 六治古塚
墳丘東側盛土状況
（T1・T9、南東から）

3. 六治古塚
墳丘西裾
（T8、北西から）

図版２　六治古塚

1. 六治古塚
北突出部
（T7・T13、南から）

2. 六治古塚
東突出部
（T4・T5・T11、北から）

3. 六治古塚
墳丘頂部
（T12、南西から）

4. 六治古塚
墳丘北東裾
（T6、南西から）

図版3　六治古塚

1. 向野塚周辺の
遺跡分布状況
（南から）

2. 向野塚
後方部全景
（T1～T6、南上空から）

3. 向野塚
後方部全景
（T1～T6、西上空から）

図版 4　向野塚

1. 向野塚
全景
（T7～T15、南東上空から）

2. 向野塚
前方部から後方部を望む
（T8～T10、南から）

3. 向野塚
墳頂部より前方部を望む
（T7～T10・T13、北東から）

図版５　向野塚

1. 向野塚
SK01
（T4、南東から）

2. 向野塚
後方部北西裾
（T4、北西から）

3. 向野塚
墳頂部墓壙
（T2、西から）

4. 向野塚
北西くびれ部
（T15、西から）

図版6　向野塚

1. 鏡坂1号墓
南西突出部
（T4・T7、西から）

2. 鏡坂1号墓
墳丘西裾層位
（T3、南西から）

3. 鏡坂1号墓
墳丘北裾
（T1、北から）

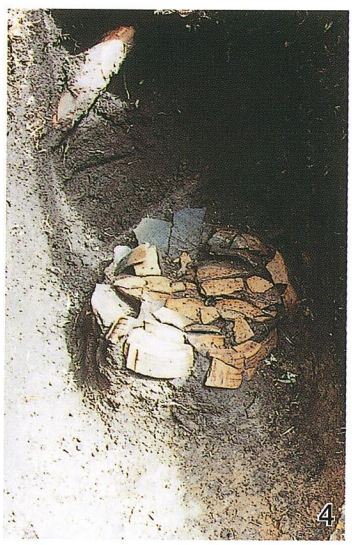
図版７　鏡坂墳墓群1号墓

1. 鏡坂2号墓
全景
（北から）

2. 鏡坂2号墓
墳丘北西裾
（T2、北から）

3. 鏡坂2号墓
西突出部
（T3・T4・T7、南から）

4. 鏡坂2号墓
西突出部先端周溝内遺物出土状況
（T3、南から）



図版 8　鏡坂墳墓群2号墓

1. 富崎1・2号墓
全景
（T1～T6、南から）

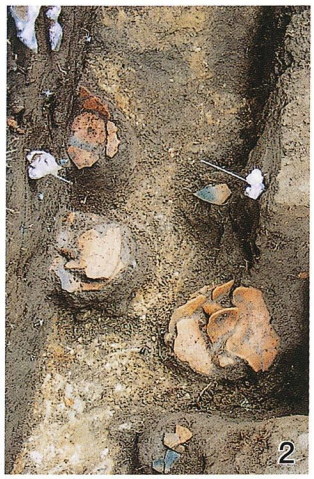
2. 富崎2号墓全景及び
富崎1号墓北西突出部周溝
（南から）

3. 富崎2号墓
南西突出部
（南東から）

図版 9　富崎墳墓群1・2号墓

1. 富崎3号墓
墳丘南裾層位
（T1、南から）

2. 富崎3号墓
墳丘南裾周溝内
遺物出土状況
（T1、南から）



3. 富崎3号墓
SK02土層断面
（T10、北から）

4. 富崎3号墓
SK02遺物出土状況
（T10、北から）

5. 富崎3号墓
南西突出部基部
SK01東側遺物出土状況
（T12、南西から）

図版10　富崎墳墓群3号墓

1. 富崎3号墓　　南西突出部基部SK01
（T12、東から）

2. 同左土層断面
（T12、北から）

3. 富崎3号墓
墳丘西裾
（T2、西から）

4. 同左遺物出土状況
（T2、西から）

5. 同上
（T2、北から）

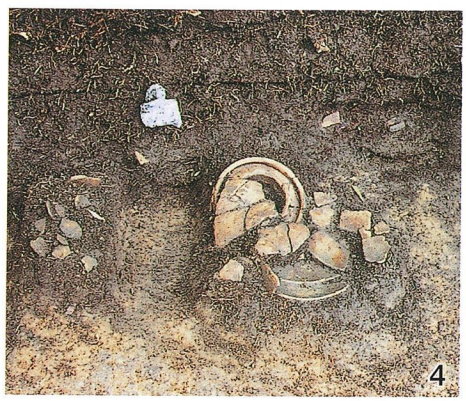
図版11　富崎墳墓群3号墓

1. 富崎3号墓
　墳丘北裾層位
　（T4、北西から）

2. 同上遺物出土
　状況
　（T4、東から）

3. 富崎3号墓
　北東突出部
　（T5・T7・T9、北から）

4. 富崎3号墓
　北東突出部基部遺物出土状況
　（T9、東から）



図版12　富崎墳墓群3号墓